元始祭

京城日報

朝刊

本日朝刊十二頁

中央政權樹立に伴ふ處理要綱具體案成る

近く臨時閣議で正式決定か

【東京支社電話】阿部内閣の最大使命であり現下の政局と微妙なる關聯を有つてゐる支那新中央政權樹立工作は最近頓に進捗し汪兆銘氏側と我現地當局との間で新政權に對する我方の援助工作並に新政權成立後に於る新國交調整法實施に關する基本要綱につき完全に意見の一致を見、我軍事當局が右に關する報告を齎し次第閣議の承認を求める許りとなつた、而して現地より實情を齎して東上する現地當局の着京日取は四日又は五日と豫想されてゐるが、直に右の基本要綱の内容檢討に入るとしても先づ興亞院會議その他の手續が必要とされてゐるので閣議に附議して正式決定する迄には若干の時日を要すべく、六日開催の臨時閣議に間に合ふかどうか疑問で陸軍始觀兵式の前後、即ち七日若くは八日ごろに臨時閣議を開くことによるかも知れない狀態である、斯くて右基本要綱が異議なく閣議で承認されれば現地に於てはこれに基いて汪、王、梁三巨頭會談が行はれ、引續き中央政權旗揭げ會議の順序で進行する筈である

首相決意動かず

事變處理貫徹に邁進

【東京電話】各派有志代議士によつて決議せられた政府不信任運動に對し政府はこれを一部の院外的運動と看做し、暫く事態の推移を靜觀するの態度に出てゐるが、有志代議士會の態度は漸次積極化を加へ、この際議會再開劈頭に於て[illegible]べしとの強硬意見さへ擡頭し四[illegible]閣の[illegible]を許さぬものあり、卅日は遠藤書記官長の[illegible]相訪問につぎ野村外相、畑陸相、金光拓相等がそれぞれ西大久保の私邸に阿部首相を訪ひ政局問題に關し[illegible]打開に關し種々懇談を遂げ、特に陸相よりは陸軍部内の意向を詳細に傳へ、[illegible]な意見の交換を行つた

なほ卅一日も朝來永田鐵相、遠藤書記官長、田中鐵道政務次官、池田[illegible]らが相次いで私邸に阿部首相を訪問、それぞれ各般の情勢を報告、打合せを重ね政界の往來は頓に活潑を加へてゐる

しかして首相としては時局擔當の決意ゆるがず、あくまで事變處理貫徹に邁進する堅き決意を有し、三十日の外相、陸相、拓相らの會見においても、右に關し改めてその決意を表明した模樣で、諸般の情勢からして今後の政府、政黨の動向は頗る重視されてゐる

敢て解散も辭せず

陸軍部内の意見も一致

【東京支社電話】阿部首相は卅一日宮中の御儀より退出後、西大久保の私邸に於て午後から遠藤書記官長、河原田文相、青木藏相等と會見を求め、當面の時局重要問題の政局[illegible]に就き各方面の情報、明年度の地方特別[illegible]等につき種々意見を交換し重要懇談を行つた

而して問題は支那中央政權の樹立工作の進行過程が國内政局に及ぼす影響の如何にあり阿部首相としては國内諸情勢の發展に鑑み事變處理が或段階に達すれば有志代議士會の運動如何に拘らず重大な考慮を加へる意向を抱いてゐるが、右の或段階とは新政權に關する内部的調整にのみ止まらず、表面的に或程度進展し[illegible]化される時機を目指してゐるものと見られる、從つて首相は政黨方面に對しても手段を盡しつゝあり

首相の見解によれば而も尚議會と正面衝突の如き事態を惹起すれば解散も辭せずとの意見を抱いてゐるものゝ如く、その動向は注目されてゐる

陸軍側は事變處理の見地から出來るだけ國内政局の安定を希望するも萬一議會に於て正面衝突する場合には致し方なしとの[illegible]

五黨首と懇談

極力局面打開に盡力

【東京電話】阿部首相は一日午前宮中に於ける拜賀終了後各閣僚の[illegible]を求め[illegible]有志代議士の反政府運動をめぐる現下の政局に就き斯る運動に依つて政局が左右されることは將來に惡例を殘すから今後重大なる變化が起らぬ限りこれに捉はれることなく既定方針通り議會に臨む考へであると決意を披瀝し、各閣僚もこれを了承した、而して政府は[illegible]再開迄に五黨首の懇談等に依り局面打開に努める方針である

御祝膳に野戰料理

畏し戰線を偲ばせ給ふ大御心

元旦、兩陛下御揃にて

【東京電話】興亞第三回の新春を迎へ、[illegible]の新春建國歡仰に[illegible]元旦を大本營に迎へさせられた天皇陛下には皇后陛下と御揃ひにて第一線將兵の勞苦を偲ばせられ、將兵とともに新春を祝はせたまふ畏き思召により御祝膳を始め元旦の御三食に各戰線の野戰料理を召させられたと承るこの野戰料理は御年中に[illegible]本廳から各戰線に送り將兵が今日の佳日を一しほの感激に迎へてる祝ふ戰線の正月料理と御同様で元旦御祝膳の御膳を終へさせられた後の[illegible]兩陛下御揃ひの御祝膳は興亞奉公日第一日たるため、元旦は特に御取止めあらせられ朝御膳と御三食に亙つて蒙疆、滿洲、北中支各戰線それぞれの料理を召させたまひ、將兵を偲ばせたまふは畏き極みである

敵四十機と交戰

二十二機を擊墜

海鷲十四年掉尾の殊勲

【上海三十一日同盟】艦隊報道部三十一日午後二時發表＝南支方面戰況

海軍航空部隊は南寧作戰以來同方面における敵空軍を殲滅すべく桂林、義寧、柳州等の敵空軍基地に對して反復攻擊を繼續せるも敵は常に我方の鋭鋒を避けて遁走各地に出沒し未だこれを殲滅するに至らざりしも卅日遂に柳州において敵空軍の有力部隊を捕捉これに大打擊を與へることを得たり、即ち同日午後海軍航空部隊○機は柳州飛行場上空において我に數倍する敵編隊を發見これに突入し、凡そ四十機と果敢なる空中戰を交はし二十二機を擊墜し他に大損害を與へ敗走せしめたり、本戰闘において我が方一機未だ歸還せず

皇紀二千六百年記念

本社の劃期的五大事業

朝鮮大博覽會

天に皇紀二千六百年の瑞光あふれ地に始政卅周年の慶色みなぎる、皇國半島いまや文化は花と咲き誇り、興亞維新へ丹心は躍る『創刊以來卅五年』けふのためにこそ心肝を碎き來つた京城日報社はこの榮光を讃へると共に更に悠久の彌榮を祈るためこゝに次の如き皇紀二千六百年記念大企畫を敢行することゝなつた、蓋し歷史ある躍進京日にしてはじめて企て得られるところであるが、就中朝鮮大博覽會は過去日本新聞界における未曾有の大規模のものであり、豪華絢爛の盛觀は正に輝く世紀の繩闘をなすもの……滿天下の注目を信じて疑はない

皇紀二千六百年の光榮の姿を現前し半島卅年の躍進の姿を具現す、更に興亞聖戰の實狀を活寫するもの…期間は來京初秋の氣北風の山肌を鮮かに浮き出させるの候

伊勢神宮　聖火奉遷繼走

伊勢神宮の聖火を拜受し帝山地區を全鮮各道府に…相代表その繼走奉遷、紀元の佳節朝鮮神宮に聖火を點ぜ移る

全鮮小學生代表　橿原神宮參拜

天長節を期し全鮮小學生の愛國祈願を代表によつて橿原神宮神前に捧げる

聖地の國體巡拜

伊勢、奈良、東京、日光、京都の聖地を團體巡拜して國體の精華を體得せんとす、京城出發二月六日、詳細は追つて發表

懸賞　長篇小說募集

朝鮮を舞台とする長篇小說を募集し半島文學界に炬火を點ぜんとす、當選作は本紙上に連載する詳細は追つて發表

京城日報社

始政卅年　躍進半島に贈る

皇國臣民の使命

陸軍中將　七田一郎

茲に聖戰下皇紀二千六百年の元旦を迎へ遙に東天を拜し謹みて聖壽の萬歲を壽ぎ奉ると共に大陸の曠野に活躍しつゝある皇軍將兵の武運長久を祈念す、惟ふに支那事變勃發以來二年有半、この間皇師の征くところ既に要地廣漠中原の要都市は悉く我が占據下に在り、國民政府は最早北中支に樹立せられたる臨時維新の兩政府は愈よ明朗化せる新中央政權を遂げ、漸く聯合せる新中央政權[illegible]近く誕生を見んとし、東亞新秩序の建設將に其の緒に就かんとす

それ皇國の武威天かくの如き偉大なる聖戰の進展は御稜威の下に皇軍將兵の勇戰奮鬪と銃後國民の赤誠後援に由來するものにして曠古の盛事なり、惟ふに[illegible]その[illegible]忠烈護國の英靈と[illegible]或は不具癈疾となりし忠勇なる戰友に對しては衷心感謝と同情とを表する次第なり、抑も今次事變の世界史的意義を顧みるにその規模の廣大なる及古を曠うするは論を俟たず、實に東亞民族を打つて一丸とし皇國を中樞とし興亞維新に邁進せんとする史的轉機を示すものにして東亞新秩序の建設は即ち我國の肇國精神たる八紘一宇の大理想に發し近くは明治大帝の東洋平和保全の聖意に據り滿洲國建國の顯現に外ならず

今や東亞の歷史は悠久たる千年を經て茲にその轉換に逢せんとしつゝあり、而もこの大業たる使命にして、現代に生を享くる吾人の最も慶ぶべき光榮ある責務なり、吾人は新東亞の歷史を創造し、苟くもこれが妨害者となり或は之に批判を加へんとして自ら傍觀者たるの自覺を欠くべからざるなり

顧みて朝鮮が光輝ある半島の現狀を見るに今や始政卅年の新春を迎へ愈よ躍進の途に在り而も事變以來半島同胞の銃後の赤誠なる總動員の進展と共にその度を加へ來りたる旺盛の精神に燃へず、我が部隊は北支河北山西の山野に動以來征戰[illegible]

[illegible]戰線に苟くも武運譽たるものありとせば實に銃後の熱誠なる後援ありたるためにしてこれ將兵の齊しく認むるところなり、苟くは銃後國民たるものは昭和十五年の年頭に際し光輝ある歷史を想起し更に事變の意義を再認識して、懸命を一層新たにし内鮮一體となり斷乎達成に一意邁進せんことを

時局の前途益々遼遠にして半島の前途はなほ多難なり、即ち事變處理の實を擧ぐるに於ては東亞永遠の平和を確立し皇道を大陸に宣布して全世界の信頼に應へ得ると共に我の興亞の偉業に獻身し得るの日が必ず來るを確信し、國民が擧って全力を竭くして至誠の奉公をなすべし

英德縣城占領

【廣東卅一日同盟】北江を目指して北上した部隊は三十一日北江の合流點の一小盆地に位し北方部隊に備へる北江沿岸上の要衝で、廣東まで百四十キロ、鐵路の沿線へ北谷[illegible]八十キロである

【廣東卅一日同盟】英德縣城を一擧に陷れた山岳地帶を大迂回した左翼、古賀、野口、佐々木の各部隊及び北江に沿つて北上した鐵道部隊の猛攻な包圍態勢下に英德防衞の敵は忽ち潰滅退却を開始、我が各部隊は敵軍を擊破追擊を續けつゝ最後の猛進擊を續け、卅日午後四時半佐々木部隊の一番乘を皮切りとして[illegible]縣城に入城した

的情勢が今後如何なる方面に發展するか、首相の決意を中心としてかねあひの狀態にあるのでこゝ數日の動きは極めて重視される

見を持してゐる、以上の如く政府部内には依然何とかして議會に臨まんとする意見が有力であるが、重臣方面の動きその他につき各方面の客觀

日ソ間諸懸案解決

北鐵讓渡金問題も落着

【東京電話】(既報)日ソ漁業條約暫定協定締結に關し外務省では三十一日午後八時左記の如く發表した

先般來政府は日ソ間長期漁業條約締結のため東京及びモスコーにおいて折衝してゐたが、ソ聯側の回答遲延し昭和本年中に交涉を纏め得ないことが明かとなつたので取敢ず明年限りの暫定協定を取り纏めることゝし交涉を進めた結果卅日の東鄕大使、モロトフ外務人民委員間會談において政府の承認を條件とする暫定協定に卅一日署名することに話が纏つた、協定の内容は大體昭和十四年の通りであるがソ聯邦側は昭和十五年中に長期本條約を締結して本暫定協定を代らしむる趣旨の規定を設けるとにも同意した、從つて長期漁業條約交涉は今後繼續して行はれる次第である、なほ昨年來漁業條約締結交涉と關聯して問題となつてゐた北鐵代價金最終賦金六百萬圓の支拂方に關しては政府は今次交涉と並行してこれが解決のため積極的に滿洲國ソ聯間に斡旋を行ひ種々折衝の結果、まづ賦金に利子及び金利增金を付したるものより滿洲國側が北鐵讓渡協定に基き支拂する明確なる對ソ債權を控除して滿洲國側の支拂額を了するとし右支拂金についてはソ聯邦側はその三分二を下らざる金額まで日滿兩國より物資を購入することとしてこゝに本問題の解決を見るに至つた

三十一日金剛山を中心とする江原道山火事の號外を二回發行、讀者に漏れなく配付いたしました

簫の音【2】

小林信二(作)

神林久雄(畫)

[illegible]やうにマタゲンキを求めるのでも知ることが出來た。

戰爭は全土に擴張し、日本全國は[illegible]織田のやうな天正十年、豐太閤の時代に完成も近いのであらう。中國[illegible]定の戰が、東北の[illegible]陸奥境、高館家領内にも昔の如く何はつて來た。豐太閤の勢威をもつてすれば、やがて陸奥、出羽その他の諸國の運命も風前の燈と化しよう、東北數ケ國の夫々の態度決定も近いであらうと噂してゐるときであつた。

紛爭のかつて絕えたことのない陸奥、羽後の國側は、それらの側勢をよそに、益々騷然を加へて、一般は如何とも避け難いかに見えた。

矢立峠を境に、兩國の關係は都へられ、この頃では羽後の軍勢は大館を回して十和田湖に出で、陸奥勢を窺ひつゝ、矢立から左折して時の右翼を狙ふべきかいづれにしても積極的に動いてゐるのは羽後勢で、佐竹侯の用兵振りは、戰意にあふれたものであつた。

これに對し戰況を[illegible]するを待つて羽後の攻勢を一氣呵成に叩き潰す作戰を執つてゐるのか、陸奥は一向に動ずる氣配さへない。

け、陸奥國主南部侯に和議を申入れる新村雅定、その男であつた。

この提議は再び陸奥側の容れるところとなり、國主をはじめ櫛大儀右衞門義馬、物集女六之丞、佐竹侯、新村雅定、高館石衞門、[illegible]等の諸將の意見と定まり、雙方、條件を[illegible]なり、[illegible]けることなく國境に一兵もとめぬことを約して兵を退けたのであつた。

さて、その兩方の模樣を詳細に書き記したところで無益と思ふからこゝには略する。雙方とも戰機の[illegible]のうちにその間を送つた。しかし中國筋における豐太閤のこともあり、小藩主が相爭ふ時期でもあるまいといふやうな氣風が支配してゐたせゐか、格別のこともおこらず、この頃から陸奥國主南部侯の姫ぎみは眼を遠く大陸に注ぎ、當時の蝦夷、今の北海道を手に入れるべく觀察の方途を廻へたのであつた。羽後國主佐竹侯は内政の改革に着眼して國力涵養に當つてゐるとき、南部侯は既に蝦夷に兵を進めてゐた。その間佐竹侯は間者をして陸奥領内の事情を隈なく探索せしめる。

[illegible]左衞門に取立てられてゐるとはいへ、マクゲンキは蝦夷出張の六十餘名を卑切つてゐるのではない。陸自に上る内國人の作男達の侮慢を感じまはつて騷ぎしてゐるのでもない。彼の勢があまゝの際格、性情が、そして數年間のない影戰が、仁左衞門の好意を得てゐるに過ぎない。

憎波その頃、將軍を合したやうに、仁左衞門が使用人達に加へる監戰一刑罰が以前にも増して苛酷を極めた。

【マクゲンキの論言た】

【加々の山麓】

と、この頃では仁時も仁左衞門の傍らを離れぬマクゲンキの、それらは一切中傷だとしてゐた。

然し二三匹のアイヌ達が、マクゲンキに接する[illegible]な態度は昔のまゝであつた。仁左衞門と連れ立つて畔道を歩くときなど、守護神の

そのやうにして寒の寒い正月を迎へてしまつた。

岩木山に[illegible]まされた三月、それでも春は却々に、やつて來さうにもなかつた。

漸く若葉が燃えて、もう五月。時が過ぎたばかりの北方路は、[illegible]溶漿に映えて[illegible]が近づいてゐた。

[illegible]い陽がキラキラ眼も眩みさうに輝く、天正七年五月七日のことであつた、同じ畔道を不快な霧野かでも馳せめぐるが如く、馬毛に[illegible]つ一騎があつた。

[illegible]した[illegible]の[illegible]を放[illegible]にも唯一騎が進むのであつた。

[illegible]にも[illegible]にも[illegible]な氣宇が漲つてゐる。多分、千軍萬馬の中を駈けめぐつたつはものであらう。[illegible]とした風姿は、いづれにしてもたゞものではない。

彼こそ羽後國主佐竹侯の命を

謹賀新春

一年の計は元旦にあり！

全革新版

皇紀二千六百年、瑞氣天地に溢れ慈光萬民に惠む。この良き新春、この良き元旦洋々たる前途を持つ全青少年の覺悟は何？　今年こそ英語征服！　總ゆる階級職業を通じて缺く可らざる資源は英語の實力である。年と共に心新たなる此の元旦を期し、勇躍、英語把握のスタートを切り給へ！

研究社

新英語通信講座

内容見本進呈

革新本講座は、英語出版三十餘年の長歷史を背景として現代英學大家を總動員してABCの讀方書方から初める獨學者の爲、最も親切明快な家庭教師として一點の隙もなき理想的組織を誇るものである。これに據らば小學六年の學力を以て、中等程度の英語實力は僅か十五箇月の短時日である。

今年こそ英語征服！

東京麹町富士見町二丁目一番地五

研究社通信學部

(IOJ—18)

"黑色"化した六花岩
勅語奉安に佐藤校長の努力
焦土金剛視察記（上）

二六〇〇年元旦、記者は金剛山大火現場視察に來溫した尹江原道知事、岡同警察部長、本府小野事務官（林政課）高員京城營林署長、鐵道局泉田、金剛山協會小林兩書記以下苦難をなめた多數の現地當局員と共に慘禍のあとの金剛を踏破した

溫井里の街から 山へ一キロほどたどると高さ十七米もある樹木が道の眞中に倒れて激しく行手を妨げてゐる、此處こそ[?]に倒されたその跡からは淡々と煙をあげてまだ燃えてゐる、この邊から上が山火事の中心なのだ、既に與い異臭にむせびながら燒け焦けた雜木林を縫つてのぼつて行くと中腹の六花岩だ

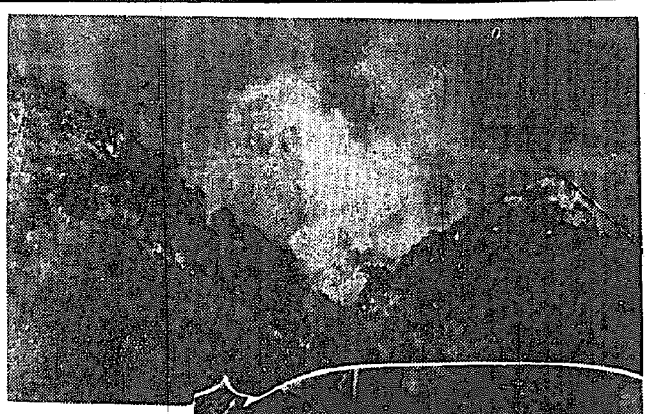
左に火もとの觀音連峰が雨の霧氣に包まれて突立つてゐる、あの殷賑が一瞬にして荒されてしまつたのだとはどうしても思へられないほどに今は靜かに眠つてゐる

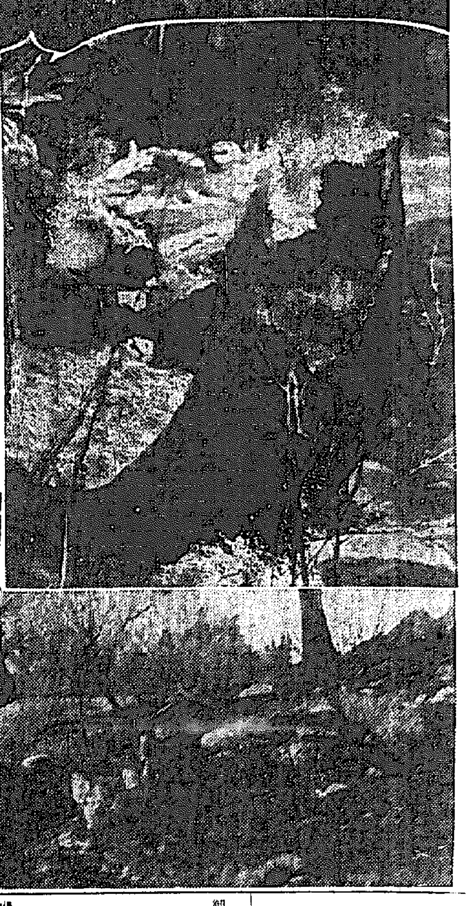
右方に眼を廻せば、点々と煙が立ちのぼつてゐる、國寶物相だ、そこに迫つて文殊峰もほのかな煙をあげてゐる、あまりに高い峰なので、警防團の消火隊は一步も寄せつけられなかつたのと、風がまだ頂上に荒れすさんで、下火がまだ燃えてゐるせゐだ

靈峰の名物颪が 今でもまたやつてきたら忽ち火と海と化することは必定だ、だがこの煙が全く消えるのは何時になるやらわからない

この點だけが今の心配だ、四季を通じて淡い雲におほはれてゐるやうに美しいといふ六花岩はその片鱗をもみせない

全く墨を塗つたやうに燻けてゐる、附近に殘された十餘軒の部落民家の燒跡はあまりにも慘めだ、老幼男女の罹災民はその燒跡でたゞ默々燒けた我が家のあとをぢーつとみつめてゐる

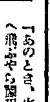




寫眞（一）毘盧物相から吹出る濛々たる煙（二）踏破された稜木（?）（三）惜しや丸坊主に化した雜木林

本社特派員記

森川寫眞部長撮影



道をもどり、危機一髪の手前で救はれた邑内の外金剛小學校を訪れた、山から下へ吹き降つた烈火が校舍の周りを圍んだのは卅日夜の六時ごろだつた、ちやうど金剛に發火してから一週夜目だ、警防團員と共に山で鎭火に努めた校長佐藤彦基（?）さんが急報に接して駈けつけたときには、既に火の手は風速卅五米に煽られて校舍の手前の雜木林まで迫つてゐた【寫眞は佐藤校長】

御眞影と勅語を奉安殿に奉遷み、猛火のやうに燒け殘りこんだ佐藤校長は靜謐を持して

運動場の眞中に 奉安したのだつた、ときに午後九時五十分、そして身を以て護り一時間、さしもに荒れ狂つた颶風は漸次に鎭下しはじめてきて、同十一時にはばたつとやんでしまつた、おう天は私の赤心を知つて下さつた……佐藤校長はいつまでも涙を流してゐたのだつた——

「あのとき、火の手が何時どこへ飛ぶやら豫想し得られないほどに激しかつたので畏くも御眞影と勅語を土中に奉安したのです—その方法より外には道がなかつたのです」

と佐藤校長は感激の面に涙ぐんで語つた

◇

トタン屋根數十坪の校舍が一尺も位置がずり動いてゐた、當時の風の凄さはこれで知るべきだらう

（つゞく）

銀狐の襟卷四本
大膽二少女が盜む！
裏からあやつる母親二人

昨臘二十四日歳末賣出しの最中に京城南大門通デパート丁子屋で銀狐襟卷二本（時價約七百圓）の盜難事件あり、續いて二日後の二十六日本町通り三中井デパートにも銀狐襟卷二本（時價約八百圓）の盜難事件があつたので所轄鍾路署本町署では極秘裡に刑事隊が總出動捜査に當つてゐたが、市内洞町の質屋金物店に銀狐を入質に來た二少女があつたので取押へ取調べると舘洞町一〇二吉永某（一七）の娘府内某女學校三年生福田某女（一七）と瀬松町四六ノ一五李某の娘府内某女學校生高某（一四）＝何れも假名＝と判明、追及すると二人は武橋町五二番地牛尚某（三）なる男から依頼されたと語へたので刑事隊は李某の所在を追及したが、李某が傀儡の人物であることを看破り二十一日朝二少女の自宅を家宅捜査すると贓品の女洋服、學生服、オーバー、絹シャツ類が現れたので詰捜を突き付け二少女が眞犯人、二人の母親が共犯と判明したが、なほこの他に相當餘罪ある見込みで嚴重取調中

一部落全燒
煙草の火から燃えうつる！
二名死亡、重輕傷多數

【平壤電話】卅一日午後一時過ぎ平安南道江西郡成從面山里舊金昔根方から出火、折柄の烈風に煽られ猛火は全部落六十四戸を舐めつくし一日午前零時過ぎ鎭火した、二日午前十一時迄の調査によると二名死亡、重傷五名輕傷十數名で家畜等の被害は相當莫大な見込で損害約三萬數千圓に上るものと見られる

當日この日は丁度部落の壯丁が老人や婦女子等を殘し成從面の(?)式に參列してゐたためこの大火を防ぐ術もなく燃えるが儘に遂に全部落を全燒せしめたもので、急報に接した江西署野上署長その他が直ちに出動、同時に鎭火の消防の出動を求め消火に努めた、原因は煙草の火が枯松葉に燃えうつつたものらしい

緬甸國防長官
重慶へ

【ニューヨーク三十一日同盟】ニューヨーク・タイムス重慶來電に依れば英領ビルマ國防長官レーモア氏はビルマ支那間の通信問題協議のため三十日重慶に飛行機で到着した

羅南の山火

【羅南電話】三十一日午後六時ごろ鏡城郡九龍面奧より原因不明の山火事起り(?)へかけて折からの烈風にあふられ火勢猖獗となり羅南より警防團總動員で消火に努めたが全く手のつけやうなく、かなり廣範圍に燃えひろがつてゐる

丸一賭博

新年の人出につけこんだ丸一賭博

☆……京城府明治町二丁目（?）は一日午後一時ごろ鍾路（?）町一丁目一四三番地先で全南（?）郡大山面玉明里勞働者李一南クン（三?）から丸一賭博で金二十圓を騙取したが直ちに本町署員に逮捕された

☆……一日午後九時半ごろ府内明治町二丁目フランス教會前に府内都賀町一〇臨永吉（三七）が丸一賭博を開張、通行人から十三圓五十七錢を捲き上げてゐたところを通行中の京城憲兵分隊荒井幸雄氏が發見、早速引捕へ本町署に突出した

祖國の感激と共に
門松に輝く元旦の佳き日
復興・武漢三鎭の姿

【漢口一日同盟】攻略後再びめぐり來つた「新しき歲」—輝かしき紀元二千六百年の佳き日を迎へたこの最前線の武漢三鎭—ほのぼのと明け初めた新年を迎へる漢口は焦土から復興へと街一新人氣一倍、一層になつてのたくましき建設の姿を描つてゐたゞけに反面わが感激ならび行はれた支那住民の冒瀆ひいては日支提携の輝かしい再出發を新しき年と共に、更にがつしりと組合つてこゝ大陸厦他深く感激の巨步に明るい新支那建設へと邁進してゐる、街には日章旗と五色旗とが日支人の軒端にうるはしい親善風景をはためかせ大通りには紅綠色とりどりの支那特有の華美な飾物が『歡喜』を描き出し、この中にあつて門松の優雅な姿が一段と眼を喜させ祖國へのなつかしい想をはせさせ、最前線とはいへ復興三鎭の偉らさる面影を物語つてゐる

わが在留邦人有志は午前十時漢口總領事館に參集、花輪總領事以下樓上において皇居遙拜、次いではるか東天を遙拜して皇室の彌榮を祈願すると共に、二千六百年の佳き日を迎へた祖國の感激を共にし、續いて一同は揃つて湖日めでたく祝賀宴を擧行した、漢口特別市政府に於ても新年を祝ひ、又これと時を同じくして武漢の支那人は武漢特別市政府に有志集合樓上において新年祝賀會を開催、正午より武漢特別會に於て盛大な交驩會を開催し共に迎へた『春』を寿ぎ、涙をあげて前途を祝ふと共に更に明るい武漢三鎭建設への力強い誓ひを固めたのだつた

尹知事
挨拶に來訪

江原道知事尹泰彬氏は、金剛山大火災鎭火挨拶をかね御手洗本社長が飛行機で空から寄せた見舞に答へるため、二日本社を來訪

御鄭寧の御寫で火はすつかり消えました、皆樣に御心配をかけさせ誠に申譯ありませんでした

厚く御禮申上げます

と挨拶した

四十萬圓燒く
太陽製油工場の發火

一日午後一時卅分ごろ京城府京町三〇番地朝鮮製油會社太陽製油工場から發火、一號工場五十坪を燒いて同三時卅分ごろ鎭火したが、石油二百(?)、在庫品廿萬圓、機械類家屋等で廿萬圓、都合四十萬圓を燒失してしまつた

原因は目下龍山署で調べてゐるが、この日は工場の一部だけが作業をしてゐた點から推して煙草の吸殼の不始末による失火ではないかと見られてゐる

昨日の火魔いづこ
あの煙と火、元旦と共に去りぬ

【溫井里にて網特派員發】こゝ外金剛にも輝く二千六百年の曙光がある、朗らかな朝だ、十時間前までこそ荒れ狂ふ火魔の恐怖に直面してゐた金剛だつたのに二六〇〇年の朝が明けると、一天無雲、靈峰には瑞雲がより菩薩の巨海には朗らかな光があふれてゐる、二六〇〇年の巨大な朝の光には火魔も風魔もその槪を恥ぢなければならなかつたのだ

溫井里 の街の人々もこの奇蹟に驚いて新し悲願としてゐたやうだが輝かな朝の光とゝもに驚きは歡喜と感り歡悅と化して頭はづれの外金剛山神社にぞくぞく詣でて神明の加護に心の限からの感謝を捧げ二六〇〇年の祈りを捧じてゐる、山を茶を一面赤茶けた燒と化せしめた

火魔の 足跡からことだけポツリと脫れ千年の翠を護保ち得た神社とその森…神前に額く人々はちつとつむつた瞼にきのふの火魔の姿がまだ生々しく殘つてゐるだけに、信ぜられぬ奇蹟にむしろ戰く膝をもちあぐねてゐるのである、現地神社に詣でして來た尹江原道知事、岡警察部長小野本府林政課事務官等の一行は大晦日の夜四時に着いてそのまゝ警防團取、對策協議に夜を明かして朝の光とゝもに打揃つて

外金剛 山神社に詣でた、二六〇〇年元旦の祈りを捧いた…只中で祈らうとは夢へてゐなかつたであらう、一行は神前から退いて現地調査に向つたが見送る街の人たちの顏に二六〇〇年を期す新誓と萬歲の感激があれば、見送られる一行の顏にも苦難から用意の新らしい感激があつた

外金剛三分一燒く
原因は重石盜掘團の火

【外金剛にて網特派員發】四十米の突風に煽られて卅日午前二時から翌卅一日午後三時頃一進一退ようやく下火となり燃え續けた前古未曾の金剛山大山火事は千餘名警防團及び部落民の決死の消火陣に阻まれて鎭火したが、被害現場を檢分した尹江原道知事、岡同警察部長、佐々木高城署長は一日夜溫井里で被害の原因及び被害狀況を左の如く發表した

原因 卅日午前三時外金剛貴峰里シンチュル森から發火したが、この邊は金剛山中、最高の重石鑛脈地で、よく盜掘團が盜掘してゐるから確かに盜掘中のものが突風に遭つて不始末した火が飛んだものと思はれる、るが、これは信じられない、重石を掘るには鑛脈地面に焚火すると重石が脆くなつて探掘し易いから、燒盡した四圍の情勢から盜掘團一味が怨恨の放火說もあるが、これは信じられない、やはり不始末の方が有力である

被害 ▲朝鮮石炭松田植林木平原大山田一萬町步（全山剛の三分の一）被害額約十萬圓▲燒失家屋、貴峰里十五戸廿六棟、溫井里十戸五棟及び旅館三戸、西面花雨里廿二戸▲保護區城約五千町步、古蹟燒失神溪寺の一部擎殿及び萬歲樓普光殿全燒▲死傷者、西面四名死亡（子供）一名負傷、行方不明五名は負傷▲風倒長箭にて錦宿旅館五十萬圓を吹飛ばされた（詳細は目下取調中）

十戸を全燒

【釜山電話】卅一日午後四時半頃慶南陜川郡妙山面（?）金錫周（?）方から出火、水利の便が悪いため消火意の如くならず隣接十戸を全燒午後八時漸く鎭火した、損害二千圓、原因取調中

大和ローマ着

【ローマ三十一日同盟】三十一日午前六時十五分ロードス島を出發した朝日新聞社機『大和』號は一路飛翔を續け卅一日午後一時五分（日本時間午後九時五分）ローマのア・リットリオ飛行場へ安着した

聲の圖書館を計畫
仙台放送局で

【東京電話】貴重な錄音を利用して放送局に全國知名の人々の聲を集錄名士の聲の圖書館を作らうといふ計畫が進められてゐる、先にこれが實行に乘り出した仙台放送局では來春の紀元二千六百年記念事業に『郷土に寄する言葉』といふ新番組を設け東北出身名士の聲を錄音、毎日午後七時ニュースの時間に東北地方の各放送局から郷土の人々に贈らうと目下河原田文相、畑陸相、松岡（?）相、田子樂研究院議長、町田民政黨總裁、水野鍊太郎、久米正雄氏等三百餘名の錄音を準備中だがやがてこの聲の圖書館計畫は全國的に擴げられ、放送會館内に全國名士の聲の集大成が出來上るものと見られる

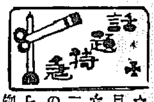
珍らしい暖かさ
惠まれた今年の正月

紀元二千六百年は晴れのいゝ(?)の年、お天氣の神樣も(?)が、晴り年とて喜んだ譯でもあるまいが、元旦の天氣は、いつもの正月にくらべて見られない何十年ぶりかの四溫

日本晴れ、測候所の話では元旦の朝は零下五度で平年より二度高く、正午は零度で二度高いといふさながら小春日和

一日は午前九時近くから雲がちらつき稍寒くなつたが、それでも朝は零下六度で平年より一度高く、正午には零下二度で二度高く惠まれた正月氣溫である、雪は正午頃からやみはじめ天氣はよくなり、こゝ當分降り寒くなる樣子は見られないといふ嬉しいお見立てである

☆　☆　☆



諸話持急

☆……今年は特に目出度い紀元二千六百年のお正月—二日恒例の初荷は松峴町から桃山町にかけて物凄い景氣で、勇ましく(?)ひの法被に大纏小纏も勇ましくドッと街頭に繰出し本町から龍山(?)方面を練り廻つた

☆……(?)中の消防數發は讃(?)をほどこし、エッサエッサのかけ聲勇ましく十數台のトラックが長蛇の列をつくつて暇縱の容を誇示さまには非常時日本の底力がはつきり現れてゐる

自殺 街には祝ひの屠蘇酒に都張つた千鳥足がヒョロリヒョロリだが今日は元旦だ、目出度いくと元旦だ、哲ひといふのに何たることか—府内梨泰院一一七番地假名さん(?)は一日午前八時ごろ阿片を飲み自殺を圖りセブランス病院に擔ぎこんだが生命危篤といふ、原因は〃生活苦のため樂い新年が迎へれぬ〃と

明治文化
明治の新聞

◇新聞の話で恐縮だが、いかにもワカラン記事だから紹介したいいづれも明治十年前後である。

泥棒が巡査の番

北海道の函館で、泥棒の番を巡査の依頼、自腹を痛みすぎて泥棒へねてしまつた。泥棒は迷惑ながら目がさめるまで附いてゐた。

難題

惚れてやつた夫が不注意から犬を殺しに殺されたのを怒つた元の飼主が持ち出した難題『冬は裸で毛衣一枚で歩く事、夏は狹犬と毛皮も縫入れをきて笠をかぶつてはならぬ』

獨りで嫁入り

岐阜縣非業の娘千代が十里の隣つる有知村某に嫁入る事となり結納まですんだが婚が行方知れずになつてしまつた。

一家待くなつてゐると何方から手紙

『婚禮は四五日前お觸りにてお出でなされ候田中仲よく暮らしおり候へ共お父上の身を心配致しおり候』と伺書だけはおまけなり

時には小松！と定評のある小松時の菓は、小松銘菓と小松唐豆園菓の二種あり、いづれも二十錢から各種、全國東京にてお求めありたし、詳細の説明書御入用の方は東京日本橋本町林式會社小松商店へ……

子供の科學 近ク八錢屆ヘオ申込ミ下サイ

國産最高級 日光ペン
見本へ切手六錢封入申込
四錢貼付御申求乞フ
東京小石川區丸山町一六
日光ペン見本係

限定承認公告

故山岡比次郎ノ遺產相續人山岡勞八(?)ハ昭和拾四年拾貳月貳拾七日ヲ以テ限定承認ヲ爲シタルニ付右ニ對スル債權者ハ來ル昭和拾五年參月貳拾七日迄ニ請求ノ申出セラレ度尚右期間内ニ申出ヲ爲サザルトキハ其ノ債權ハ清算ヨリ除外スベキニ付御了知アリ度民法第千貳拾九條ノ規定ニ依リ公告仕候也

昭和拾四年拾貳月參拾日

住所 全羅北道扶安郡扶寧面西中里武九七

故山岡比次郎　遺產相續人　山岡勞(?)

第二十期決算公告

貸借對照表（昭和十四年十一月末日現在）

科目	金額
借方（資產）	
未拂込資本金	[illegible]
土地建物	[illegible]
機械器具	[illegible]
什器	[illegible]
作業品	[illegible]
工事勘定	[illegible]
受取手形	[illegible]
假拂金	[illegible]
未收入金	[illegible]
銀行預金	[illegible]
振替貯金	[illegible]
合計	[illegible]
貸方（負債）	
資本金	[illegible]
法定積立金	[illegible]
別途積立金	[illegible]
社員身元保證金	[illegible]
支拂手形	[illegible]
借入金	[illegible]
假受金	[illegible]
未拂金	[illegible]
當期利益金	[illegible]
合計	[illegible]

右ノ通リニ候也

昭和十四年十二月二十九日

龍山工作株式會社

謝近火御見舞
津下材木店
京城府漢江通一三
電話龍山二一九番 二二九三番

謹迎紀元二千六百年之新春

妻キサヨ儀兼而病氣療養中の處養生不相叶遂に一月一日午前四時死去仕候間茲に生前の御厚誼を謝し謹告仕候

追而來る一月四日午後二時(?)寺に於て告別式相營み申候

尚乍勝手御供物等の儀は堅く御辭退申上候

京城府(?)町六三番地

夫 河野又一

親族總代 井口章道　名井乘吉

友人總代 下本義夫　林茂樹　谷岡五郎　福島源三吉

正月第一陣豪華番組

十二月廿九日より正月四日マデ

1 京日世界ニュース
2 大毎ニュース
3 天然色音樂短篇 ホツフマンの舟唄
4 スリルと冒險の活劇 マンダ（地獄の島）三卷
5 R・K・O・パテー ニュース
6 世界動物寫眞シリーズ サカロフの庭の乙女 シリーシンフォニー極彩色
7 漫畫 ミッキーのハワイ情緒

一日九回映寫何時行つても御覽になれます
毎日午前十時より午後十時迄
大人廿錢・小人十錢
京城・三中井・明治町通 電話本局（2）七八一〇番

京日文化映画劇場

佐々木駒之助（東洋拓殖株式會社總裁）

池邊龍一（東洋拓殖株式會社副總裁）

田島常三

（東京市赤坂區氷川町十九番地）

池田清

藤山愛一郎

藤川利三郎

片倉製絲紡績株式會社

金子隆三

京城郵便所會聯合會長 波多江千代藏

謹而奉賀
紀元二千六百年之新春
併祈皇軍之武運長久

藤塚信丈（元山府）

浦田鷲雄（元山鐵道事務所長）

大西吉（元山府會議員）

大沼喜久壽（元山府尹）

大村猶吉郎（元山府會副議長）

大島强平（朝鮮運送元山支店長）

小野文秀（元山府京町）

尾崎兵治（朝鮮米穀倉庫元山支店長）

梶原有一（三中井元山支店長）

韓泳魂（元山商工會議所議員）

韓璣洙（元山府會議員）

韓君弼（元山商工會議所議員）

木谷四郎（北鮮米油株式會社專務）

魏枝鶴（元山府會議員）

金秉俊（元山商工會議所副會頭）

小池鶴一（元山警察署長）

小林儀三郎（北鮮合同運輸專務）

佐々木準三郎（咸南道會議員）

神宮興太郎（咸鏡南道會議員）

鈴木芳治（漁業 元山府）

妹尾兵録（元山穀物檢査支所長）

全用斌（元山府會議員）

土屋幹夫（咸南道會議員）

德永元之（元山海事出張所長）

中村時雄（元山稅關支署長）

南百祐（中樞院參議 元山）

西川米吉（咸南道廳元山出張所長）

西岡常三郎（元山）

平山作次郎（殖產銀行元山支店長）

藤岡茂一郎（元山商工會議所會頭）

藤川儀平（咸南無盡專務）

町田省吾（元山商工會議所理事）

杉谷春吉（北鮮重油販賣同業組合長）

平野榮（元山府會議員）

和田國安（朝鮮銀行元山支店支配人）

元山商工會議所

元山公立學校職員會

元山漁業組合

元山府海岸通六 元山肝油株式會社

元山府本町 北谷德一商店

元山府本町 梅田寫眞舘

元山再製鹽業組合

元山府場村洞 場村洞郵便所 所長 辻宗一

元山府壽町 佐古自轉車商會 佐古博

元山府南村洞 會席料理 錦雅園

元山府京町 辯護士 國本德五郎

元山府泉町 新谷酒造場

咸鏡南道醸油醸造業水產組合 元山支部

元山府本町五 英一商會 金・烈

元山官署懇話會

德源郡廳
元山海事出張所
元山刑務支所
元山穀物檢查支所
咸南道水產試驗場
元山專賣局出張所
元山移出牛檢疫所
元山測候所
元山警察署
元山憲兵分隊
元山山林課出張所
元山郵便局
元山稅關支署
永興灣要塞司令部
元山鐵道事務所
元山道立醫院
元山稅務署
元山土木管區出張所
元山水產檢查支所

元山觀光協會

元山府海岸通三 丸元穀物協會

元山水產振興會

元山府畜產同業組合

元山京町 咸南無盡株式會社

元山府旭町 北鮮米油株式會社

朝鮮郵船株式會社 元山支店

元山府本町一 元タク株式會社

元山府本町 三中井元山支店 代表電話七七〇番

株式會社藤田組 元山鑛業出張所

元山遞信分掌局

元山郵便局

元山府春日町 北鮮石油販賣同業組合 北鮮重油販賣同業組合

元山土曜會

元山穀物商組合

元山精米業組合

元山府春日町 朝鮮第一區潛水器漁業水產組合 組合長 若汐幸之助 理事 石丸菊八

元山港 御料理 丸芳本店

元山畜產株式會社 社長 杉野多市 支配人 岡本利三郎

元山府春日町 キツコーハク醤油 廣瀨茂平商店

有價證券賣買 成和現物店

元山府旭町 小泉藤三郎商店

元山府京町 大勝舘

元山府廳一同

元山港 東海水產株式會社 社長 和氣孫吉 專務 佐々木準三郎 支配人 有田勝司

元山驛前 日本鑛業株式會社 元山買鑛出張所

元山府海岸通 朝鮮第二區機船底曳網 漁業水產組合

元山水曜會

朝鮮運送株式會社 元山支店 支店長 大島强平 支店長代理 吉田守治 同 齋藤武一郎 同 東金治

元山府海岸通 木材商 大村商店

元山港 佐々木準三郎商店 漁業部・酒造部

激流 (75)

久生十蘭 作　伊勢良夫 畫

四人の客（一）

冬彦に、ものをいはせる暇も與へずに、暁子は、ジロジロと胡散らしく部屋の中を見廻しながら、

「へえ、こんなとこなのかア。何かよつぽど變つたところだと思つてゐたのに、これは、たゞの漢方醫ぢやないか」

と、いつて、急に顔をひそめると、ひどい早口で、

「冬彦さん、あたし、あなたとランデヴの約束があつて來たことになつてゐるんだから、そのおつもりでゐてちやうだい、よくつて？」

そして、廊の間からちよつと舌の先を出して見せた。

夫人の前では牡蠣のやうに押し黙り、無愛想な陰氣な顔ばかりしてゐるこの娘が、こんな晴々しい陽氣な素振りをしようなぞとは思ひもかけなかつたので、冬彦は、呆氣にとられて、返事もせずに暁子の顔を眺めてゐた。

暁子の方は、そんなことには頓着なく、いひたいだけのことをいつてしまふと、網扉の方へかけ戻つて平手でうるさく網扉を叩き立てながら、

「こゝよ、こゝよ。こつちイ入つていらつしやい。七面倒臭い、へんな顔をしてゐるから、あまり機嫌がよくないらしいけど……」

氣忙しい足音が近づいて來て、遠慮する風もなく、すらすらと晁子が入つて來た。

如何にも取つてつけたやうな、無意味な愛想笑ひをしながら、

「……しばらくね、ご機嫌よろしくつて？……大勢でだしぬけに押しかけて來て、ご迷惑ではありませんでしたかしら？」

冬彦は、辟易して、慇懃にお辭儀をした。

「ご機嫌よろしう。……どういふ風の吹き廻しで、はるばるこんなところまでおいでくだすつたのですか？」

愛想をいふつもりだつたのが、心の作用で、つい苦味が出た。あわてゝいひなほした。

「あまり意外な光栄で、呆氣にとられてゐるところなんです」

—これもいけなかつた。冬彦は鬱僻になつて黙り込んでしまつた。

暁子は、ジロジロと冬彦の顔を眺めあげながら、

「ふン、あまり氣に入らないやうなやうすね。ひとを呼んで置いてそんな顔ツてないわ」といつて、一應だけでもニッコリさせようと……

冬彦は、仕方がなくなつて苦笑した。

暁子は、すぐ引取つて、

「あたしの方は、どんな顔されたつてかまひませんのよ、冬彦さん。……厭な用件でやつて來たんですから、むづかしい顔の方がふさはしいくらゐ」

冬彦は、つい鬱陶しい口調になつて、

「……實は、たつた今、こゝで大喧嘩がありましてね、ちよつとムシャクシャしてゐたもんだから……。無愛想な顔はそのせゐなんです」

「おやおや」

「今まで私の仕事を助けてゐてくれた男が、あまりだらしがないんで退散を命じたばかしのところだつたんです。どうもはや……」

（畜生！ぬけぬけと嘘をいひやがる。この卑劣なところが、貴樣の正體なんだぞ）

針のやうなものがチクリと良心を刺した。

が、すべり出した舌鋒は、急には止まらなかつた。

「くだらない奴で、こんな仕事にする興味も熱意も持つてゐない男なんです。仕事の一部分を任さなければならない必要もあるのに、そんな風ぢや、とても安心してゐられるものぢやありませんから……」

やうやくそこで、舌鋒が止まつた。さすがに心の中で赤面した。

暁子は、だしぬけに大きな聲で叫んだ。

「そんなとこに突ツ立つてないでこつちイ入つて來なさいよウ」

扉を押して、昌造が、つゝましいやうすで、つゝ來た。

ＤＫラヂオ

三日（水）＝元始祭＝

第一放送　朝の部

午前六・五〇ニュース
七・〇〇（東）時報
七・〇一（名）神社巡り—名古屋熱田神宮より中繼—「熱田神宮」
七・三五（東）季節の話題 初春 文學博士 武川寅風
七・五〇（城）宮城遙拜・今日の天氣見込
七・五一（東）ラヂオ十訓
九・二〇（城）氣象通報
九・三〇（東）お琴と長唄（一）箏曲（イ）オメデタウ（ロ）六段（ハ）勇士のおうち（ニ）さくらくく（ホ）紀元二千六百年（ヘ）千鳥（ト）愛國行進曲 平井澄子・外（二）〃長唄越後獅子〃 立本千枝子
一〇・〇〇（大）講演 皇國を讃へたる歌（三） 川田順
一〇・三〇（杭州より）敵前の春—杭州郊外銭塘江畔關口大橋附近より中繼

晝の部

正午（東）時報・今日のお知らせ
午後〇・〇五（宮）紀元二千六百年を讃ふ、ピアノ獨奏 ヴインチュゾ・チマチ
〇・三〇 ニュース
一・〇〇（東）講談〃田宮父子出世譚〃 神田伯龍
一・四〇（東）琵琶〃鉢の木〃 吉村岳城
二・一〇（大）ラヂオ風景〃初春日記〃（管弦）市川春代（その兄）大澤嘉司（その父）野淵昶（その母）岩間櫻子（太つた紳士）松井茂男（下女松）吉備加代子（花作りの男兼作）狹山健一（船頭）和久敬一（夏子）古川綾子
二・五九（東）國內アナウンス 北米西部向海外放送
三・〇〇（東）歌謡曲（午後）東京放送管絃樂團（指揮）山田榮一（一）（イ）鈴蘭の唄（ロ）庭の千草 葦原邦子（二）（イ）花と兵隊（ロ）〇〇ぶし 徳山璉（三）（イ）長崎物語（ロ）涙のブルース 由利あけみ（四）（イ）鴨川の雪（ロ）新坂月夜 市丸・（同）獅子（合唱）日本ビクター合唱團
四・〇〇ニュース・氣象通報（谷山・清津）

夜の部

六・〇〇（大）童話劇〃曉の行進〃 若草コドモ會
六・二五（東）講演 國史の特質（二） 文學博士 平泉澄
七・〇〇 ニュース・天氣見込
七・三〇（東）〃講演 今年への期待〃 鐵道大臣 永田秀次郎
八・〇〇（大）獨唱・合唱・朗詠と管絃樂 美々津の御船出（獨唱）與田良三（同）矢田部勁吉（同）加藤十郎（合唱）大阪音樂學校生徒（管絃樂）大阪放送交響樂團（指揮）高橋賴久
八・三〇（東）ラヂオドラマ〃ボクの鋼かもめ丸〃（脚色）丸山定夫（息子正夫）北澤彪・他に男の男
九・〇五（東）邦樂〃鶴龜〃（唄）松永和楓（同）松永和英治（同）松永和三郎（三味線）杵屋六一郎（同）杵屋榮次郎（同）杵屋六左衛門（上調子）杵屋榮次郎（小鼓）堅田喜惣治（同）望月太左衛門（大鼓）梅屋金太郎
九・四〇（東）時報・ニュース（城）氣象通報・ラヂオメモ・明日の暦（城、地方へのニュース）

第二放送

午後〇・〇五（宮）ピアノ獨奏 ヴインチュゾ・チマチ
一・〇〇 名曲鑑賞（レコード）解說 金聖謙
六・〇〇 朝鮮講話 朴敬玉
六・三〇 講演 新年展望（二） 韓相龍
六・四五 講演 新年展望（二） 張德秀
七・三〇 獨唱と二重唱 申貞順・崔昌根
八・〇〇 京畿歌謠 李彩紅
八・三〇 ラヂオドラマ ＤＫドラマクラブ
九・〇〇 南道雜謠 朴初月
九・二五 時調 李承煥
一〇・一〇 レコード音樂

あすのきゝもの

四日（木）

午後〇・〇五（城）長唄（鶴亀）迎年新世（一）勧進帳（唄）杵屋佐吉（同）杵屋佐多吉（同）杵屋乃志（同）杵屋とし江（三味線）杵屋佐多枝（同）杵屋佐之吉（囃子）田中傳兵衛（小鼓）田中傳兵衛（大鼓）田中竹蔵（太鼓）田中勝美
〇・〇五 謡曲（觀世）〃小鍛冶〃 松本正太郎
〇・三〇 ニュース
一・〇〇（東）新年詩會大會（平曲） 小倉詩吟研究會
六・〇〇（東）童話劇〃こども日本〃 長崎藤夫・外
七・三〇（東）講演 世界の新情勢と日本 外務大臣 野村吉三郎
七・五〇（東）寄席中繼—人形町末廣亭より（一）落語 乘馬 柳家金語樓（二）物語 與謝野鐵幹（三）落語 稽古や 林家正藏
八・四五（大）寄席中繼—北陽花月倶樂部より（一）落語 桂三木助（二）漫才 花月亭洲井・浪花 地球は廻る（三）漫才 大阪群東京群 千葉秀男・花菱アチャコ

歌謡曲（午後三時）

（伴奏）東京放送管絃樂團（指揮）山田榮一

一、（イ）鈴蘭の唄　佐伯孝夫作詞　乘松明朗作曲　**葦原邦子**

淡山の唄の谷間に、ほのぼの匂ふ鈴蘭の、鈴がやさしく鳴る頃は、乙女ごころに夢がくる。

憧れみつる青空に、ほのかに白き浮雲の、風に流され越えてゆく、山の彼方の戀しさよ。

（ロ）庭の千草（タンゴ）　鈴木靜一編曲

庭の千草も虫の音も、枯れて淋しくなりにけり、あゝ白菊、嗚呼白菊、ひとりおくれて咲きにけり。

露にたわむや菊の花、霜におごるや菊の花、あゝあはれあはれあゝ白菊、人の操もかくてこそ。

二、（イ）花と兵隊　**徳山璉**　とらんしつと詩社作詞　北原白秋補作　佐々木俊一作曲

お國出てから幾歳ぞ、戰友と迎へた殊の正月、なんだ涙が嬉しいか。

杭や元氣か杭州も、雪がとけたよもう春だ、伸びたまかした鬚面に、明日は剃刀でもあてようか。

呼ぶは夜風か姑娘か、月の西湖の舟か、香れ白蘭こんな夜は何か歩哨も氣が輕い。

生死戰月大陸の、日灼け隣立つ肩の上、仰ぐ日の丸鬨と力が湧きあがる。

（ロ）〇〇ぶし　上山雅輔作詞　高木東六作曲

僕が生れたその時は、〇〇肥えた桃太郎、今は〇〇方面で、〇〇出動御奉公。

去ぬる〇月〇日に〇〇城の戰ひで、敵の〇〇〇〇台、分捕りしたのも僕の腕。

僕が生れたその時は、〇〇肥つた桃太郎、産湯のたらひもまん〇で、でんでん太鼓も〇かつた。小學校では宿題もいつも〇〇一重で〇いと笑はれた。

……の新兵さんは〇い……だ、村の角りにや歳〇で、〇い土俵の花形だ。

今は戰地の露かぶき、〇い月影が明けりや、進軍喇叭に朝の風、仰ぐ國旗も日の丸だ。

三、（イ）長崎物語　**由利あけみ**　梅木三郎作詞　佐々木俊一作曲

赤い花なら曼珠沙華、阿蘭陀屋敷に雨が降る、濡れて泣いてるじやがたらお春、未練な出船のあゝ鐘が鳴るララ鐘が鳴る。

うつす月影彩玻璃、父は異國の人ゆゑに、金の十字架心に抱けど、乙女盛りなあゝ曇り勝ちララ曇り勝ち。

坂の長崎石疊、南京煙火に日が暮れて、そゞろ戀しい出島の沖に、母の精靈があゝ流れ行くララ流れ行く。

平戸離れて幾百里、つゞる文さへつくものを、なぜに歸らぬじやがたらお春、サンタクルスのあゝ鐘が鳴るララ鐘が鳴る。

（ロ）涙のブルース　藤浦行雄作詞作曲　灰田晴彦編曲

ひとりみる夜の窓、誰も知らないこの胸、あゝ涙、涙あふれて、胸もうるんで泣いてゐる、ひとりみる夜の窓、ひとりみる夜の窓。

たゞひとり泣きぬれて、別れゆく月のみち、誰も知らないこの胸、あゝあの日あの夜想へば、涙あふれることのころ、過ぎし日よ左様なら、なにもかも左様なら。

ひとりねむる夜の部屋、ひとりみる淋しい夢、誰れも知らないこの胸、あゝ涙涙あふれて、頬にながれる熱い雨、ひとりねむる夜の部屋、ひとりみる淋しい夢。

四、（三味線）　**市丸**

（イ）鴨田の雪　日本ビクター合唱團　伊東深水作詞　常磐津三蔵作曲

〽いざ言問はん都鳥、太郎が軒や三郷の、笠木を後に思ひ出、つもる思ひも白堤や、心隅田の里遠く、渡る綾瀬や秋嵐、路の雪も雪崩れて流れは消えし隅田川。

（ロ）新坂月夜　小野金次郎作詞　山田抄太郎作曲　岡村雅雄編曲

〽夢が浮世か浮世が夢か、唄もかなしや爪彈きに、聲すにあまる戀の闇、朝に一羽、エエ眼なし鳥

「三つ鹿ひの兄さんと」

〽いふて暮らしてえにしの糸に、妻と呼ばれて何時身に、この身捨てても見せたやけふの、エエ月の鏡

（ハ）建國音頭　若杉雄三郎作詞　中山晋平作曲

サアサ踊ひませう、御代の春ヨイショ（合唱）ことしやお國の二千と六百年、君の御稜威は千代八千代千代八千代ソレ（合唱）ヤンレサツテモマタメデタヨイ〳〵

サアサ讚へませう建國のヨイショ、御武このかたのひゆく國威、樹てたみ柱いやさかに、いやさかにソレ、ヤンレサツテモマタメデタヨイヨイヨイ

サアサ讃ひませう千代かけてヨイショ、君は一系四海を照らす、國は一億國の柱ソレヤンレサツテモマタメデタヨイ〳〵

サアサ踊りませう、興亞のをどりヨイショ、菊は九重さくらは八重よ、菊と咲いたる櫻一重、櫻一重ソレ、ヤンレサツテモマタメデタヨイ〳〵。

本社特選　日本棋院四五六段五人拔戰

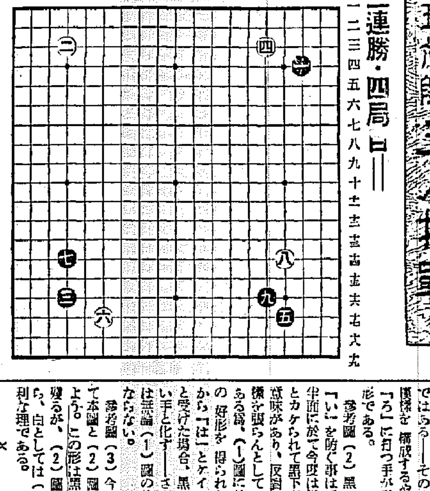
―小泉氏三連勝・四局目―

【第二回】持時間各九時間　一分以內切捨

消費時間　白〇・四〇分　黒〇・一二分

●九　ほ十六　3分

五段　長谷川章　（先相先　先番）
四段　小泉重郎　（二日込　半日出）



黒敵の意表に出る

但、局部的に不利な尖み

評解　七段　鈴木爲次郎

◇意外にも白八の二間高ガヽリに對し、黒は九とコスんで受けた。これを見た長谷川五段は「高橋四段お出なすつたナ……調子を外されて弱りにけり」と呟ひつゝこれが對策に耽る。

註　黒九のコスミは高橋四段に依つて打出された手である。

【評解】黒九は特殊の場合にのみ許される手であつて、妄に打つべき手ではない。では黒のコスミとこれを普通の如く「へノ十六」に打つのとの優劣に就て、少しく檢討して見やう。

參考圖（1）茲に示す黒二のケイマは諸君周知の如く白一に對する最も普通の受けであるとけれども白「い」にツケる筋を殘すが—しかし白「い」は容易に打てぬ手ではある—その代り黒が下邊に模樣を構成するやうな場合には「ろ」に打つ手が素晴らしく好い形である。

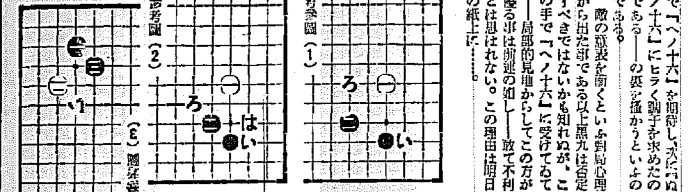
參考圖（2）黒二とコスめば白「い」を防ぐ事は可能だが、その半面に於て今度は逆に白から「ろ」とカケられて黒下方に壓迫される意味があり、反對に黒が下邊に模樣を張らんとしても二とコスんである爲、（一）圖に於ける黒「ろ」の好形を得られない。又後日白から「は」とケイマされ黒「い」と受けた場合、黒二が働きに乏しい手と化す—さうした場合黒二は無論（一）圖の位置でなければならない。

參考圖（3）今度は方面を換へて本圖と（2）圖とを比較して見よう。この形は黒「い」のカケが殘るが、（2）圖はそれが無いから、白としては（2）圖の方が有利な理である。

×

如上の意味から「へノ十六」のケイマに比して、黒九が明らかに不利である事を首肯されよう。

然らば黒は何故に不利を承知で九のコスミを採つたかと云ふに、それは昨紙に記した如くこれを「へノ十六」に受けると、白「ぬノ十六」黒「はノ十六」白「れノ六」の運びを嫌つたのである。換言すれば白八の作戰—白は黒九で「へノ十六」を期待し、次に「ぬノ十六」にヒラく調子を求めたのである—の要を摧かうといふのである。敵の意表を衝くといふ對局心理から出た事である以上黒九は否定すべきではないかも知れぬが、この手で「へノ十六」に受けてゐる事は—局部的見地からしてこの方が優る事は前述の如し—敢て不利とは思はれない。この理由は明日の紙上に………



參考圖（1）　參考圖（2）　（3）圖考參

本紙獨占　全高段者を總動員　東西對抗大棋戰

加藤氏一勝・高勝二局目

第二回（昭和十四年十二月八日）

先番 七段 小泉兼吉
五段 加藤治郎

△七二金23　▲七六飛　△六二銀　▲七四歩1　△同　歩　▲同　飛　△九四歩1　▲九六歩　△七三歩1　▲四八金3

（消費時間）持時間各九時間　小泉氏 四十分　加藤氏 五分

力戰模樣となる

【〇ノ二】觀戰記　八段　齋藤銀次郎

本日の局面に於て、上手は七二金と上つた。即ち、從來の上手に指した手で、これは、敵七八飛の七筋攻撃に對する策があるが、常套の見解からいへば、この七二金の形はいさゝか重いやうに思はれる。上手としてこの場合の手は、七二銀の形が普通で、所謂美濃囲ひの形を用ひるのが例とされてゐる。七二銀の形ならば、下手七四歩、同歩、同飛、七三銀、七六飛、七四歩から六四歩の形となり、五二金、六三金と進めて勝組となし、作戰範圍が廣い。本局は

下手の七四歩に上手同歩から下手同飛、次に七三歩、七六飛迄は當然の應酬である。上手の六二銀に對し下手九六歩に、敵が受けなければ突き越すといふぼんやりした手の如くであるが、これは七筋飛車に重大な與へる結果となり、面白くない。

木村名人講評

第二回

上手七二金は、下手の力攻撃に對する一つの陣法で、從來の美濃囲ひを嫌つたのも、敵の豫想を裏切つて、この際の手段である。

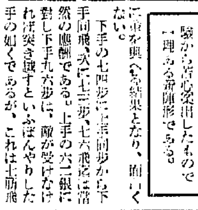
下手七六飛は三筋の交換を防ぎつゝ、同時に敵飛の活躍を牽制する絶妙の位置である。次いで四八金も最近六段級の若手が實戰の經驗から苦心案出したもので一理ある新陣形である。

の如く七二金では、六二銀と形を整へる一手となり、陣形的堅固がやゝ弱い。

こゝで下手七四歩と直ちに交換に行つたのは上手の七三銀を補へたもの。この手を保留しては、上手に六二銀と上られ、その時七四歩では同歩、同飛、七三銀とされて上手の形における玉の攻撃の當りを出し、飛角銀の協力と共に端から敵陣破碎の策を企てるものである。

上手九四歩は、如何なることがあつても敵にこの筋を突き越されては玉を狹くし、形を與へるから、どうしても、受けねばならぬ手である。

次に下手の四八金であるが、この一手を僅か三分の考慮で指し、自信あるものゝ如く、だが、結局玉を三八へ移して、二八銀のやうな圍ひの已むなきに至るやうでは、甚だ面白くない。やはりこゝは普通に三八銀と指すか或は四八玉と早く我が陣の固めをなすべきである。二八銀の如き所謂『端銀』といふ陣形に甘しなるとすれば、玉の安全保障にして充分に脱出が難しいのである。



（面盤の手指の局本）

謹而奉賀紀元二千六百年之新春
祈皇軍武運長久

茂山郡三長 面長 徐允星 電話三〇番
北鮮製紙化學工業株式會社 三長出張所 主任 土屋今朝治
三長陸一商會 金□□ 電話三番
三長警察署 署長 前田美穗
三上森林保護區 三長森林事務所 同組合書記 文仲鉉・朴□□
三長作業出張所 大西勇
茂山郡三長 崔鵬植
三長郵便局一同
茂山郡三長 宋智鏞
三長南公立小學校 田淵重雄・金□源・權永松・康千松
茂山郡事務所三長出張所 尹秉烈 電話三四番
鎭南浦府明倫町 古賀醫院 電話八四七番
平壤刑務所 鎭南浦支所
鎭南浦府三和町 鈴木商店 長距話 電話番
鎭南浦府 青木健三郎

鎭南浦支所 穀物檢査所へ
鎭南浦府 內地人貸座敷組合
鎭南浦府明倫町 藤本盛一
鎭南浦府 三和組
鎭南浦府龍井里八十四番地 東拓興業株式會社 取締役會長 朴文相 取締役社長 朴□駿 專務取締役 柴田宜勝 常務取締役 朴文玉
鎭南浦府三和町 山七商會本店
鎭南浦府 平安木材株式會社
鎭南浦畜産株式會社 電話五六二番
鎭南浦府鎭南浦里 三和券番 電話八二三番
鎭南浦府 半島呉服工廠 電話一五四番
鎭南浦府館町 青木組
鎭南浦府 新光織物會社
鎭南浦産業組合
紙物貸商 鎭南浦府碑石里 白南薫商店 電話五四六・五四七番
鎭南浦府月見町二〇 鎭南浦汽船株式會社
朝鮮米穀倉庫株式會社 鎭南浦支店

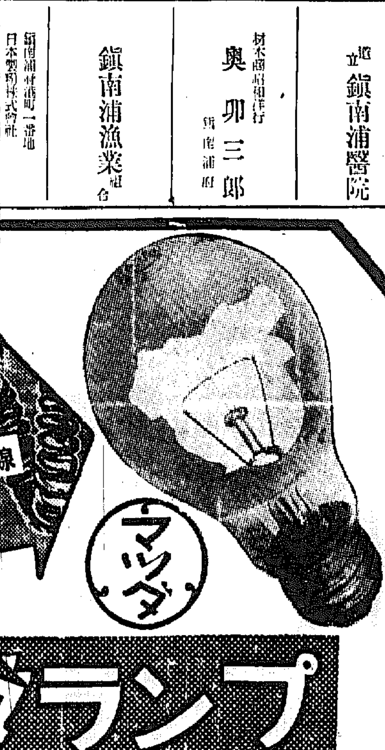
道立 鎭南浦醫院
材木商 鎭南浦府 奧卯三郎
鎭南浦漁業組合
鎭南浦府浦町一番地 日本製粉株式會社 鎭南浦工場
鎭南浦府三和町一〇六番地 合資會社 柳原釀造所 電話一四三番 振替京城三一七番
朝鮮鎭南浦府三和町 末永淳 電話三〇九番
鎭南浦警察署
鎭南浦府後浦里 泉樂館 電話八八番
鎭南浦府 象山郁次郎
鎭南浦府 武本仁平
鎭南浦府 吉井精米所
龍岡邑內 龍岡黄龍會
鎭南浦府 泰想夫
鎭南浦府 江月
鎭南浦府移出牛檢疫所長 原三吉
鎭南浦府三和町 青山醫院 電話五八番

壽天壤無窮
皇紀二千六百年

家庭に、工場に、商店に電氣の消費量の少い信用ある良質電球を選ぶことが大切です。

此の要求を滿たすのは同じ明るさで電力二割の節約をする新マツダランプ以外にはありません。それはマツダランプ三浦順一技師發明の二重コイル纖條を使つてゐるからです。

電力節約 2割を目標に



電力節約の標準電球
新マツダランプ
25W 30W 40W 60W

信用あるマツダの商品は この看板の店で
マツダ會員の店

東京芝浦電氣株式會社 マツダ支社

京城日報 第二輯

汪氏正月の思ひ出を語る

最も印象深かつた 重慶脱出後の迎春

◇◇◇◇日露戰爭當時は日本で◇◇◇◇

汪兆銘氏と日本　新中央政權の首班に擬せられてゐる汪兆銘氏は人も知る如く日本に留學し日本人への感情、國民性をよく消化してゐるため、其智と彼の純眞な性格が近衞聲明の全的支持となつて表はれたものである

秋庭晨課の圖に寄せる感懷

正月が來ると私は懷しい故郷に過した幼年時代のことを想ひ出す。私の生れたのは廣東省の番禺縣であるが、元來私の父は浙江山陰の出で廣東へは仕事のために移住して來てゐたのである。當時父に從つて來てゐたのは母と十人兄弟の一番の末の私とだけで、それで私一人は父母の亡くなるまでその膝下に育てられ寵愛をほしいまゝにしてゐたのである。家庭での教育は極めて嚴格であつた。殊に嚴格を以て知られた父は毎夕書塾から歸つて來る私をつかまへて手習をさせたり、讀む書を誦させたり私の教育のためには一方ならぬ力を入れたものであつた。この家庭での訓誨は父が七十四歳の高齢で長逝する間際まで續いたのである。

◇…**母は** 父に先立つこと一年、私の十三の年に亡くなつた。兄嫁と共に起き、老いたる父に仕へ、子女を育て、家事について萬端の末に至るまで怠せにせず、良き家庭の人として終つた母の四十四年の生涯は、いはゞ労苦と犧牲の生涯であつた。子供の私は母の辛苦などは知る譯もなく機嫌がよければ話をねだり、醜腹すれば外を遊び歩く、そして正月や節句には近所の子供と戯れ、遊びつかれてしまふといふ風であつた。然し、後から思へば、永く纏れた兄等を思つてゞあらうか母が物蔭ではげに涙の跡を見せてゐたこともあつた。行李の中から着物を取り出して召使に命じて金に代へさせてゐた母の姿なども、子供心に、かすかな記憶がある。だがその頃の私には何故母が一人浮かぬ顔をして溜息をしてゐるかは判る筈がなかつた。

◇…**私は** 母を喪つて六年にして國を離れ十年を經て故郷に歸つた。懷しい故郷に歸つて亡き父母の墓所の前に步を運んで見たが、父の手蹟の二、三を探し得たのみで、母の想ひ出のよすがとなるものは一つもなかつた。後年私が畫家溫榮氏に囑して「秋庭晨課圖」（上掲圖）なる一幅を描いてもらつたのは幼い頃の母の想ひ出を、せめて子孫に殘しておきたいと思つたからなのである。良、九歳の私が中庭で、母から手習をうけてゐる圖なのである。一昨年の暮重慶脱出を目前にして漢口に脱れた時も何一つ身につけて行くことも出來なかつたが、私はこの一幅一つだけは大切に携へて行つたのである。

露國の敗北を 祈つた中國人

一九〇五年、それは明治三十八年になるが、その年の正月は私が故郷を離れて迎へた最初の正月だつた。當時の私は滿二十一歳の若者で、廣東省政府の官費留學生としてその前年の秋日本に渡り、法政大學に入學したのである。一九〇五年の正月が私にとつて特に印象深いのは次の二つの理由からである。即ちその一つは、私が故郷をはなれて他國で迎へた最初の正月であつたこと、その二は、時恰も日露戰爭の最中で日本の國内は舉げて戰爭の雰圍氣に包まれてゐたときであつたことである。

◇…**殊に** 暮から正月にかけては日本中の關心が旅順陷落に集中してゐた。今日にも陷落か、明日こそは落ちるかと、全國民が待望してゐたのである。新聞では乃木さんは元旦に旅順を陷れて、天皇陛下をはじめ奉り、國民一般の期待にこたへやう全力を擧げて旅順を攻めてゐるのだなどゝいひ合ふものだつた。この日本國民の熱烈な愛國心に、若かつた私の心底に深く焼きつけられずにはゐなかつたのである。學校で授業中でも窓の外で號外賣りの鈴の音が聞えると先生は講義を中止して號外を買つてこさせるといふ風だつた。

◇…**當時**の法政大學には我々支那からの留學生のために特別の速成科が設けられてあつたので、私は日本語は出來なかつたが講義は充分に聽くことが出來た。又書物も文語體のものが多かつたので、一、二ケ月も勉強すれば大體の意味をつかむことは出來、勉學には支障はなかつた。その頃私のゐた家は神田の春永館といふ宿であつたが、町の名ははつきり記憶してゐない。たしか神保町のあたりだつたと思ふ。當時の私は勉強が精一杯といふ所だつた。從つて教室で講義をきいた梅謙次郎博士その他の教授を除いては直接薫陶を受ける機會もなかつた。その頃私が一番打ち込んでゐた日本の偉人は、西郷南洲と勝海舟の二人であつた。この二人なくしては江戸事件の解決もとより、明治維新もあれ程見事な完成を見ることが出來なかつたらうといふのが私の考へであつた。

◇…**私は** 神田邊りの本屋を歩く度びにこの二人の偉人に關係あるものを漁ることを忘れなかつた。日曜日などにはよく上野公園に出掛けて、西郷さんの銅像を飽かず眺めたものだ。我々が、革命運動をやつてゐた頃革命運動は國内の分裂を招き結局は列國の中國分割を促進するやうなものだと反對したものであるが私は明治維新の時のこと、殊に西郷、勝兩雄のことなどを考へ、決してそんな心配はないと確信してゐた。

今日から當時の正月を回顧して私の頭に浮かぶもう一つの感想がある。日露戰爭は日清戰爭をへだたる僅々十年のことであつた。しかも日露戰爭の勃發した時、中國民の殆ど總てが祈つて希つたことは日本の勝利であつた。十年の間に日支間の感情的對立は既に消滅されてしまつてゐた。私の日本留學當時東京にゐた中國人は一萬を遙かに越えてゐたのだが、それが

◇…**一人** 殘らず日本を心から支持してゐたのである。今日の現狀を見て日支兩國は到底心から相和することは出來ないといふ説をなすものもあるが、私はそのたびに留學當時で過した日露戰爭當時のことを想ひ起こすのである。時に政治方法の如何によつては國と國との怨みは決して解き得ぬものではないのである。なほこの一九〇五年といふ年は、私にとつてもう一つの忘れられぬ出來事があつた。それはこの年に私が初めて孫文先生に會つたことである。場所は神田の錦輝館で、演説會の席上であつた。時日はいまはつきりおぼえてゐないが、孫文先生はにしか白い眼で見てゐられたかも知れない頃のことであつたらう。中國人として私の考へたことは日本の正月は、色々な慣習でかためられた何となく窮苦しい支那の正月に比べて、氣輕な樂しいものであつたといふことである。

秋庭晨課之圖　汪兆銘氏所藏

革命運動拋棄 肅親王の配慮

次に北京の牢獄中で迎へた正月のお話をしよう。一九一〇年（明治四十三年）私は北京に於て時の攝政王狙撃を企てゝ成らず、遂に逮捕され投獄された。そして一九一一年（明治四十四年）の正月は北京の獄窓で迎へたのである。當時の北京の牢獄は、囚人の待遇を改善して間もない頃のことでそれ以前に比べては話にならぬ程人道的になつてゐた。それでも私の腕は鎖で縛られ、毎日三回の食事は老米と稱して古くなつて脂肪分などは全く失くなつた、黄色味をおびたひどい米を炊いたものを一椀、菜は大根一切汁一杯だけ、五日に一回豆腐が附いて來た。これでも以前に比べては非常に良くなつてゐたのである。然し當時の私は喰ひ氣盛りの靑年であつたから始終空腹に惱んだものである

◇…**肉を** 喰はしてくれるのは年に三回、端午の節句、中秋の日、それに元日だけであつた。殊に元日には一人當り一片の肉を與へられるのであつた。獄中に迎へたこの年の正月は何も記されて一片の肉をむさぼり喰つて迎へたのである。

攝政王暗殺計畫の相棒は黄復生で、同志の中で最も我々の仲間で多少とも化學の知識のあつたのは彼一人であつたので、彼が専ら爆彈の製造に當つたのだが、彼も後捕へられて處刑されてしまつた。私が一命を助けられたのは全く肅親王が自分に革命の決心を拋棄させる爲めに凡ゆる手段を講じた。一度は實際に刑場にまで引出して自分の決心の程度を追つたこともあつた。又獄中に色々な自分の友人が入つて來て、天下を論じ詩を談じたことも屡々であつた。自分が死一等を減ぜられたことには何等の政治的意圖も含まれてゐなかつたとはいはれないかも知れないが、私はその頃のことを想ひ出す度に必ずこの滿朝末期の傑れた政治家のことを想ふのである。

既に決定せる 和平方針挫跌

民國廿七年、廿八年（昭和十三、十四年）即ち一昨年と昨年の正月は、私の生涯で最も深刻な正月だつた。廿七年（昭和十三年）の正月は南京陷落のすぐ後で、私は漢口にゐた。丁度その前年の十二月廿四日トラウトマン獨逸大使の和平條件に對する第二次回答が到着した。張群、孔祥煕と私とがこの回答を中心に討議した末この條件を受諾すべしとの結論に達し、その旨を委員長に報告したのであるが、蔣委員長は言葉に窮してゐる風であつた。その結果閣議が重大であるから白崇禧、李宗仁、閻錫山の來着を待つて正式に討議決定するといふことになつた。こんな工合で結局李宗仁は參加出來なかつたが十二月卅日から翌年の元日に至るまで三日間に亙つて國防最高會議が開かれ

◇…**和戰** の問題を協議したのである。そして大晦日に至つてトラウトマン大使の和平提議を受諾することが決定した。併せて蔣介石は行政院長の職を辭し、孔祥煕が代つて院長となり、張群が副院長になるといふことも決定を見るに至つた。蔣介石としては自ら行政院長の職を退くことにより講和の責任をとるのを避けようといふことであつたらうと思ふ。廿七年の元旦は朝から皆で蔣委員長を圍んで丸一日色々と話し合つて過した。例年ならば政府當局者一同打揃つて年賀の禮を交し、中山陵に詣でるのであつたが、この年は南京すでに陷落ち、中山陵は日本軍の占領するところとなつてゐるのだ。實に何ともいへない暗澹たる氣持であつた。

◇…**孔、張** はこの日正式に辭任し、二日には白崇禧、閻錫山等が漢口を去つて前線に赴き、四日には蔣介石も開封方面に去つてしまつた。こゝで後に殘つた孔祥煕と張群二人に和平の全責任が負はされてしまつたのである。然し前後左右から色々の邪魔が入り彼らに時日を空費してゐる中、日本は遂に待ち切れなくなつて一月十六日の聲明を發するに至り、總ては全く水泡に歸してしまつたのである。今になつて蔣介石は私の和平運動に非難を浴せてゐるが、私としてはかゝる非難は全く承服し難い。和平方針は現に二十六年の大晦日の國防最高會議で正式に決定され廿七年の元日からは實行に移される筈であつたのだ。然しこのことについては屢々説明もし、今日では天下周知の事實となつてゐるのだから繰返して述べることもないと思ふ

感慨深い昨春 河内での正月

昨年の河内での正月を想ひ出すと實に感慨無量である。私は前年の民國二十七年十二月十八日重慶を脱出し二十九日に第一次通電を發した。わざわざ河内に行つて通電を發した理由は、重慶にゐては到底自分の意見を發表することが不可能だつたからである。蔣介石の平常のやり口から、私がかゝる通電を發して態度を明かにすれば、必ずテロ手段を以て對抗してくるであらうことは充分承知であつた。然し二十二日には近衞聲明が發せられてゐるので、私としてはこれ以上時間を空費することは出來なかつた。同志の周佛海、陳公博、陶希聖、褚民誼等は逐次通電を發表するため香港へ行つてしまつたので、河内には私夫婦と曾仲鳴と部下二、三名だけが殘つた。私共はその當時何一つ護身用の武器を持たなかつた。されはといつて現に危險が身に迫つてゐるでもないのに佛印當局に保護を要求することも出來ず、又保護を受ければ

◇…**同志** との連絡上都合も惡いので、佛印當局からは保護の申出があつたがこれを拒絶したのであつた。然し河内の市内にゐては危險なので市外の山上にあるダムダオといふ避暑地のホテルに入つた。冬であるから私共の他には何人もゐない。ガランとした大きなホテルの一室で私共四、五人は緊張裡に然し極めて靜かに和平運動開始後初めての新年を迎へたのであつた。元日の夜、私の手許に情報が入り、重慶では私と同志との國民黨籍削奪が決められてゐることが知つた。この報せには流石に私も曾仲鳴も暗然とし、その夜は一晩中皆で考へ込んだのである。重慶を脱出して來たばかりの私共としては直ちに重慶に反對することは出來ない所であつた。一方又當時は未だ日本側の出方も私共には判らなかつた。近衞聲明は未だ原則的のもので、日本が具體的にどう出てくるかは全く不明だつたのである。彼等がホテルに到着した時には既に嗅ぎつけたものだつたのである。此の時から私は河内に別に一軒の家を借りることとしたのである。當時佛印當局はこの家を護衞すると申出て來たが、これを拒絶したので家の附近には

◇…**警官** が一人立つてゐるのみであつた。家そのものには全然護衞設備はなかつた。三月二十一日同志曾仲鳴が重慶側のテロの兇手にたふれたのはこの家である。この事件あつて以來佛印當局は私の家を完全に包圍して警戒するに至つた。蔣介石は私の聲を良く識つてゐるが、私は彼の聲を知らないと非難されたことは一再に止らない。重慶脱出後私が直ぐ積極的行動に移らなかつたことも、同志の間に相當批難をうけたものである。萬一河内かダムダオで私が重慶側のテロに斃れてしまつてゐたならば和平運動は遂に水泡に歸してしまはねばならなかつたらうといふ批評も受けた。然し自分の心持を正直にいふと、脱出したばかりの重慶を向ふに廻して、これの打倒に邁進するといふことは自分の氣持としては、どうしても出來なかつたのである。

◇…**こん** な感情は婦女子の仁に過ぎぬといふ人もある。私自身も繰り返し自分を批判して見なければならぬと考へてはゐるが、自分の國策遂行の途上において、時に孤獨に陷るとしても已むを得ないことであるし、私としては何ら心に悔む所はない

【完】＝汪兆銘氏＝

堀部安兵衛 (148)

一龍齋貞山（演）　矢島健三（畫）

上杉上屋敷（二）

如醉軒に馳走になり、その日は安兵衞さりげなく立歸りましたが此奴は大變、どうして上杉家へ如醉軒が行つたかと、段々と樣子を探ねると、千坂兵部に惡附けられて行つたといふ事。シテ見れば忠義の浪人の時一役買つて出るに相違ない、その時は此の安兵衛一身に引受けようと考へた。扨て如醉軒は松坂町の吉良の屋敷へ引移り相變らず酒ばかり飲んで居りましたが、愈々元祿十五年十二月十四日御茶の湯の催しも果て、如醉軒は日頃使ふ文助を相手に相小屋に於て十二分に酒を飲み、グツスリと寢入りました、丁度その夜の九ツ過ぎといふ深更、ドーン、ドン、ドン、ドーン、一打ち三流れ、山鹿流の陣太鼓が堅川の水に響いて

聞える、如醉軒はガバと跳ね起き、
五『文助……文助』
文『ヘエ』
五『一寸參れ』
文『旦那樣お目覺めで……』
五『今太鼓の音が聞えるな』
文『ヘエ左樣で』
五『月は變れど日は同じ十四日、扨て斯くあらんと推量に違はず、捌ては淺野の浪人共に相見える、只今鳴る太鼓は山鹿流の總陣の太鼓、愈々此の主の仇を討たんと、今夜討ち入つたと見えたり、如何にも感服々々、文助、長らく貴樣にも厄介になつたが、愈々今夜は永の別れとならう、之は僅僅への手當として十兩、乃公の手廻りはソツクリ貴樣に遣はすから、夜々何方へでも持つて參れ、是は記念の品として脇差一振を遣はす』
と、手づから文助に與へ、それから又三尺八寸の大太刀を取り出し、
五『是は則宗の一刀、乃公の遺品だと云つて岱松太郎に送つて與れ、今夜は義に依つて命を拋つ、死後乃公の死骸は成るべく手早く始末をして、後の事は宜しく賴むぞ、此を卽ち盃に認め置いた、此後は其方も無事に暮らすが宜しい』
文『ヘエ、左樣なれば旦那樣……御役には立ちますまいが、どうか私も共に……』
五『馬鹿を云へ、貴樣が出て怪我でも致さば後々の哭び種だ、今夜は此の五左衛門が片ツ端から敵を斬り殺さうと思へば、手間暇もないが、併しそれは本意でない、我が一命は義の爲に捨てる身、たゞ主の生命をお計らつて與れるが何よりの喜び、それよりは乃公の亡き後の冥土に一杯持つて來い……冷酒でも宜い、早うせい』
文『畏まりました』
と大きな物に酒を持つて來た、五左衛門一升三四合の冷酒、五左衛門は飲んで、息をも吐かずグーツと一盃に飲み干して、舌鼓を鳴らし、
五『ア、旨かつた、モウ何も思ひ殘す事はない、然らば文助、外へ出てはならんぞ、小屋の内に引込んで居れ』
文『ハイ、是がモウ旦那樣お別れでございますか』
五『ナニ又對面致す時もある、ではくれぐ\たのんだぞ』
いふや五左衛門、ヒラリ飛び出し、雨戸をガラリ開ける途端にピューッと飛んで來た一本の矢、危く體を轉して、
五『アゝ扨てく\行屆いたものだ、文助決して出るな怪我でもすると相成らんぞ』
と、五左衛門ドン〳〵と、此方は表門の方へ飛び込んで行く。表門は大石內藏之助、裏門は主税、總勢四十餘名、前後から一時に討入り、何れも切尖を揃へて切り廻る、之がために驚いて起きた上杉の附人も、僅の間にバタ〳〵斬り倒される、義士の面々においてはその勢ひに乘じて、與へ〳〵と踏込む有樣。上杉の附人鰐屋半右衛門、大將分左右衛門外二名の武士が踏止まつて必死に防戰してゐる處へ、五左衞門入道如醉軒ノツソリやつて來た。

大田 本券番

大田 貸座敷組合

大田旅館組合

大田府春日町一 大田劇場 電話三〇六番

大田府春日町一丁目 食料品雜貨 和地商店 電話四〇四番

日本旅行協會 大田案内所 主任 山口榮 三中井支店內

謹而奉賀紀元二千六百年之新春
祈皇軍武運長久

三中井大田支店 企劃宣傳部長 淺井久靖

穀物檢査所 大田出張所

大田府春日町一 白尾榮次 電話一〇二番

大田府本町一 辰己藥局 辰己昇

大田府本町二丁目 芦田農蠶具 株式會社 電話一六五番

大田府春日町一 東亞藥局 電話二五五番

大田府大興町 溝部寫眞館 電話四〇六番

公州公立學校團（順不同）
公州公立中學校
公州公立女子師範學校
公州公立高等女學校
公州公立農業學校
公州常盤公立尋常高等小學校
公州公立本町尋常小學校

公州郡廳 公州郡農會 職員一同

公州刑務所 職員一同

公州邑外 學校職員一同

公州税務署 公州酒造組合

大田料理屋置屋組合
料理屋 あら川 秀の家 大芳 新月 銀水 やつこ
藝妓置屋 秀の家 千代本 富士家 松芳 あら川

大田府本町二 土井深商店 電話六六五番

大田府春日町二丁目 新案特許文化初期適本舗 古田商店 電話六三三番

大田酒造株式會社

大田府本町二丁目 合資會社 半島荷主運輸組 代表者 宋貞範 電話六三六番

大田府本町二丁目 菓子製造 三玉堂製菓工場 電話二一四番

大田府春日町 丸越洋品店

大田府春日町 大橋理髮館

大田府春日町一 鮮畫堂

大田府春日町一丁目 畑商會精肉部 電話一二九番

忠南道立 公州醫院 職員一同

忠南道會議員 宮本善吉 公州郡公州邑

公州邑長 高原圓治郎

朝鮮製絲株式會社公州支店 支店長 藤島通章

公州郵便局 職員一同

朝鮮運送株式會社 公州營業所

忠南公州邑 朝鮮合同電氣株式會社 公州出張所

忠南自動車運輸株式會社 公州營業所

穀物檢査所群山支所公州出張所 所長 長野精二

公州金融組合

儒城消防組頭 小林小三郎

忠南大田府外儒城 儒城副業組合

論山邑 皆樣ノ社交場 手輕ナ和洋食 昭和食堂 電話一一一番

論山商工會長 佐伯烈次郎

論山邑 月曜會

論山郡內（除江景） 初等學校職員一同

論山邑 梶原酒造場 電話七〇番
梶原精米所 電話七一番

論山邑 論山劇場 金翊洙

論山穀物商組合

論山邑 天誠堂病院 院長 郭海鳳 副院長 李裕甸 電話二

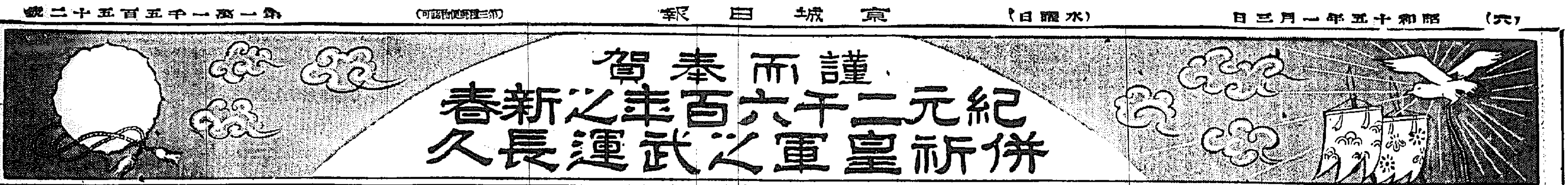
論山警防團副團長 論山學校組合議員 藤富十郎

論山警防團長 忠南自動車運輸株式會社社長 松永茂 電話一九番

論山邑 昭和精米所 主 金啓洪 電話六六番

論山邑學校組合議員 黑田忠治 山川實 小山楢松 武藤幸太郎 高橋式三郎 藤富十郎（順序不同）

論山邑會議員一同



謹而奉賀
紀元二千六百年之新春
併祈皇軍之武運長久

株式會社 三中井平壤支店

朝鮮金融組合聯合會 平南支部
平安南道金融組合

平安南道 道立平壤醫院

平壤雜貨卸商組合

平壤吳服商組合

東洋製絲株式會社 平壤工場

片倉殖産株式會社 平壤府濱町

平壤醫師會

株式會社 平壤券番 社長 桑谷寶

鳳泉無煙炭株式會社 平壤出張所

平壤興業株式會社 平壤府

平壤稅務監督局 食堂員一同

平壤官公立 中等學校長一同

平壤淸酒酒造組合

久田護謨工業所 平壤府

平壤府上需里 木戶公男

東信水道用品商會 平壤府上需里

平壤商工會議所 會頭 福島英朔

平壤府山手町 合資會社 緒方組 電話二二八四番

平壤府橋口町 國良醬油株式會社

平安南道 道會議員 稻葉善之助

平壤府大寮面 平壤聯合基督病院

平壤地方專賣局 食堂員一同

大同郡農會

平壤酒造組合聯合會

平壤遞信分掌局 局長 見野槌藏

平壤府船橋里 大同運輸株式會社

平壤酒造組合

平壤水曜會

平南無盡株式會社 平壤府旭町

平安南道高等官食堂

平壤遞信分掌局
平壤郵便局

[illegible] 金爽應 電話二九六五番

平安南道々會議員 崔正洙

平壤 穀物商組合

平壤 金融組合土曜會 直井芳五郎 福家修 島三好 小林友三郎

平壤佛教會

各種織物雜貨卸商 高瀨合名會社支店 平壤府館後里一三八 電話[illegible]

高橋鑛油株式會社 平壤府[illegible]

平壤驛前 松岡酒造場 電話二〇二九番

平壤自動車株式會社

銘酒金千代釀造元 齋藤酒造合名會社 平壤府

朝鮮小野田セメント製造株式會社 平壤府外勝湖里

朝鮮商工株式會社 平壤支店

鐘淵紡績株式會社 平壤工場 平壤府船橋里

鑛山・工場用・機械工具 五六商會本店 平壤府南門通二丁目 電話[illegible] 私書函平壤局第二八號 振替口座京城一七六四八番 電略[五]又ハ[五六]
支店 哈爾濱道外[illegible]九〇號 新京特別市朝日通 [illegible]

新式燒酎釀造元 平壤三和會
太平釀造株式會社
七星釀造株式會社
大同釀造株式會社
平壤釀造株式會社
販賣元 三井物産株式會社

日本穀産株式會社 平壤府船橋里

西鮮中央鐵道株式會社

平壤莫大小工業組合 平壤府箕林里

株式會社 平壤魚菜市場

平壤府廳

西鮮合同電氣株式會社 社長 今井賴次郎 平壤府船橋里

大日本製糖株式會社 朝鮮工場 平壤府船橋里

朝鮮煉炭株式會社 平壤事務所 平壤府船橋里

平壤府里門里五九 平南陸運株式會社

家庭

支那婦人の話（上）
家族保全と女性の地位
後藤朝太郎

【一】

支那では、昔から萬戸の春風は[illegible]觀をつく(飾)り、百年の世帯は[illegible]正裝をつ(け)[illegible]といつてゐる、[illegible]ての家庭は[illegible]風俗習慣分であつてこそそのうちに自ら[illegible]のとがきちんと行はれるやうになるもして[illegible]のである。又百[illegible]も長く[illegible]代受けついでやつてゐるところを見ると、[illegible]は父祖の仕事のコツを覺えて來て、段々舊殻を新で改良も加へられ、進歩するものだとのことを述べてゐるのである。支那は萬古長[illegible]の國である、時には民を新たにし、一大[illegible]の新機軸をすることもあるが、概して國柄として[illegible]本位のせゐでも[illegible]保守的氣分があるのであつて、何かといへば祖先風本位とならうとする

そこへさして世相が世相であるから支那は國風として孝道を緯び、國よりも、君よりも道徳の根本を親に對する孝道におく、孝道が第一である、從つて家を齊へることを以つて國を治むるの初めとなしてゐるのだ、このため支那はどの時代を見ても、又どの地方を見ても家族の安全保持といふことが重く觀られ、家族中心主義がいつも強化せられてゐる、殊に風俗的に來襲して來る匪賊の脅威のあるのもこの家族生活がこれによつて脅かされるとから來てゐるのである、あの高い土塀の壁を厳にすると共に、深々としてゐるのも家族の平和が一段と鞏固で且つその生命の安全を保護せんがためなのである、又門内に[illegible]、家に[illegible]の[illegible]を設くることに汲々たるは、勿論資財の安全を圖らんがためなのである、かやうにしてその家族の生活保護には相當精神を使ひ、用心に用心をしてゐるのだが、湖南山東[illegible]あたりの田舍にまゐると、土壁といふ土壘の住宅には高い望樓を設けたり、或は高臺のめぐらされた四周に擁つて行つて更に防禦柵を作つたりその外周に濠をめぐらしたりしてゐるのがあるといふ状態なのである

かほどまで神經過敏な防禦に腐心し外敵に氣を配つてゐるにも拘らず、いざ匪賊來襲の厄に遭つたとなるとその生命財産は風前の燈火の運命になるのだ、實に恐ろしい、わけても婦女子の身の上といふものが一番心配になるのである、上古は女を掠奪して行つて奴隷にした習俗があつた、そこから女に又(手)で奴の字を生み出してみたり、又女を提供することによつて爪(手)に女の組合せをなしここに妥の字が出來たりなどした、これらの[illegible]の字からその悲惨な古代風俗の半面は想ひ半ばに過ぐるものがあるのである

人心の荒びを防ぐ
戰時女性の心性と感覺
（下） 山本千代子

半島在住内地女性は考へる

一體この頃の我々の周圍は餘りにも價値への感覺が麻痺になつて來てゐるのではないでせうか。もめんのよさを知ふる事すら錯誤時代に入つた今日、石鹸がない、お砂糖がない、マッチがないといはれゝば、狼ひ世の中の人間もスフ入りにならざるを得ないのかも知れませんけれども、ものゝ有無だけで、かくも人間を左右し得るものかと思へば、誠に無暴な事だといへます。國策的見地から物資愛護や廢品回收の必要な事はいふまでもありませんけれども、あくまでも人間の價値が「ものゝ價値」に先行するのだといふ事を忘れてはならないと思ひます。戰爭に勝つといふ事が武力で勝つだけでも、又經濟力で勝つだけでも意味をなさないことを、我々は銘記に努へて見なければなりません。

一方事變以來半島の人々のコペルニクス的生活開進は實に瞠目すべきものがあります、國旗の下に覺れた半毅や、幾多の若き勇ましき志願兵たちはともあれ事變當初にまづ金釵を獻納したのは半島婦人達ではありませんでした。戰時の國内の仕事に率先して努力する家庭婦人たち地方民の生活改善に積極的にのり出したインテリ婦人たち、銃後生産増強に日夜精勤する工場婦人たち、――世界の各國に言つて、小氣味よくもひたすら働らく半島女人群に、我々は驚異と賞讃の拍手を送らざるを得ません。況て現役、保護觀察、病院、新聞雜誌關係などの驚異的社會教化事業の領域において、それ／＼に[illegible]成し遂げられつゝある此の内鮮一體への努力に至つては、眞に知るべからざる力があると思はれます。

最近京城のＹＭＣＡではその二百八十名の半島女子會員を擧げて東京のＹＷ日本同盟に加盟し、更に京城在住の内地女子會員の慫慂に[illegible]すといふ事ですし、また昔さ未婚の内鮮女性を總動員して慰靈の旗印の下に時によつてはトラツクも運轉出來る、グライダーも操縱出來るといつた頼もしい[illegible]役女性が誕生するといふ時もきいてをりますが、かういつた氣運が特に若い内鮮女性たちの間に自主的おこつて來てゐることは、眞に紀元二千六百年的に意義ある現象でありませう。實際において東亞道義帝國日本のパターハーフなの大陸への前進的、國際的、交通的基地としての朝鮮半島は、いはばだといふことは、誰の眼にも明かな事實であつて、半島大衆の間に一人でも若しまだこの事實の認識を持たない者があれば、それは大きな誤りであり、又この半島の重大なる運命に關心を傾はない内地人が半島内に一人でもあるとすれば、それは無責任も甚だしいといはねばなりますまい。どう考へて見ても半島の運命は、東亞協同の精神に立脚して前述日本の大使命達成に參加するといふことになるのであつて、半島人にして半島のこの運命を愛さない者は憐憫し、内地人にして半島のこの運命を懸念しない者は、半島に住する資格を失ひます。

この頃私は面白い話をきゝました。それは或る聯隊でのことですが、兵隊さん達は武士の魂である銃を何よりも大切にする。銃の手入等は實に嚴重に念入りにしますが、銃は相當重い上に特殊の[illegible]を持つてをるので、慣れない間はそれを立てかけるのがむづかしいのださうです。それで何人かの新兵さんが銃を立てかけようとして何かの工合でガチヤリと倒しますさうすると伍長さんは即座に號令として次のやうな命令を發するのださうです。

『銃を取つて捧げ銃！銃殿々々と斯へて十分間の捧げ銃！』

日本が兵隊ならば、朝鮮は銃です。銃なくして兵隊は存在しない。その何より大切な銃をあくまでも武士の魂として拜ぶ所に皇國日本の强さが、力が、美しさが生れるのではないでせうかそして我々女性大衆の立場からいふならば、この際特に各自心を穢謹にして價値への感覺を昂め、女性共通の心情と直觀を以て職爭と職爭處理から來る人心の荒びを防ぎ、溫い關心を以て半島大衆の生活に臨み、彼には知性を求めてさしのべられてゐる半島女性の手をしつかと握つて、相共に興亞の方向に確實な歩みを踏み出すべきではないでせうか。

紀元二千六百年の祝典の鐘が鳴りひゞく時、我々の心は溜ります。我々は正しく、力强く新しい出發をせねばなりません。

新春頌

『萬年青』 京城 小林香雲

家庭を守る婦人へ！（中）
やまと心と智仁勇
京城梨花女專 藤元綠子

（いま）こそ私達は智、仁、勇の女性にならねばなりません。古來の女性として慈悲の權化善隣の再來の光明皇后を戴き勇の女性として奈良朝時代遣唐使として支那に行かれた藤原清河の娘喜娘を擧げることが出來ます。姫は支那に渡られた父を安ぜられ十六歳の時に、はるばる八重の潮路を苦しい航海を重ねて支那に渡られましたが、その時既に父は死んでゐられ、荒い海を再び日本に歸つて來られましたが、今度はお母樣がなくなつてゐられた、などの御話はいまも歴史に殘つてゐます。奈良朝時代はるばる支那まで行かれるのには非常な勇があればこそ「渡満移民など萬へ物ね」といふ一部現代の娘の見習ひたいことだと存じます。又智、仁、勇、三つを兼ねそなへてゐられた方は近くは[illegible]樣と存じます。忠道、臣道、婦道を辨へられ維新の弘業に大いに力あつたことは皆樣もよく御存じのことと思ひます。この皆樣も正成の妻久子の方も、國家危急存亡の史上類ひなき大變に際遇し、後戰苦はありながらも、自若從容として勇氣の氣をうちにつゝみ、大義を誤らず、死を恐れず、決死の覺悟で婦道を守り通されたことは御の御國の日本婦人として上、下、[illegible]ことではございますまい。日本人として生れる人は皆このいづれの方にもおとらない大和心が胸の[illegible]に潛められてゐるのです。

（私）（は）生活の如何なる部面も其の基礎が皇道精神に立脚したものでなくてはならないと固く信じてゐます。[illegible]の心、國體、友情の和、頂の靈味の内鮮一體、五族共和、生活改善皆これより生れて來ます。特に私達婦人の手でも内鮮一體に細密しいたし度いと存じます。本當に理解し合ひ生活と共に出來上るのだと存じます。私は生活が溶れて、頂の内鮮一體が私の周圍に平山のよい半島出身（こんな言葉はいやですが）の御友達を持つてゐます。内地の衣食住その他の生活様式を研究されて私達の生活に歩み寄つて來て下さいます。その御氣持は嬉しくなつて來る事も御座います。「小さい石がなければ大きい石は積み重ねられない（プラトン）」私達はこの小さい石にならうではありませんか？美しい言葉はいらない、唯行はれだと存じます、支那事變も三度目の御正月を迎へ、皇軍將兵の偉勳が[illegible]つて行きます。新聞「[illegible]までない、毛のシヤツなどもつての外ない」といふ聲を耳にいたします。甘い物は全然ない事はないでせう。スフ製品が御座います。

（本）（當）の意味において品不足といふのはソビエート・ロシヤの現狀だと存じます。こゝは缺乏などといふより、品物が全然ないといふ位、たまにあればそれこそ目から火が出る程高價だといふです。例へば牛肉一〇〇匁が一圓四十錢、靴一足が一五〇圓、[illegible]一足七〇〇―一〇〇〇圓位だといふです。全く私達想像も出來かねます（一圓日本金六十五錢）又獨逸などもこの度の職亂で食料品は相當切符制度になつてゐるやうです。これに比して日本はどうでせう。全く有難いとではありませんか。歐洲大戰中或は大戰後生れたヒトラー・ユーゲントの青少年等は榮養不良にもせず立派に發育せしめたのは確に獨逸婦人の賢明さによるものと存じます。

新春の客（三） お正月をきく
朝鮮の美風を
京城地方法院判事山田正武氏夫人 山田昌子さん談

結婚するまでは兩親や兄弟がゐらつしやる家庭ではさぞかし何かと淋しい思ひをするだらうと想像して參りましたが、私のこの考へはあまりにも幼稚なものでございました。お父樣やお母樣がゐらつしやることを先づ感謝致します

女學生時代には誰もが夢見るのは夫婦きりの生活ですが、私の經驗から申しますと斷然御兩親のゐられるところをおすゝめします、お父樣やお母樣が、とてもやさしくして下さいます

そして私も娘時代と同じくいろ／＼我儘もいへるし、お花お茶なども實家と同じやうにお稽古してゐます

結婚はじめての新春をお迎へするに當りましての私の感想と申しましては朝鮮の御家庭で目上の方をうやうやしく大切にする美風を私の家庭にも取入れて麗はしくて[illegible]な家庭をつくつてゆきたいといふことです

私たち若いものは先きが長いのですからどんなものも[illegible]にもどんなにまづいものをいただきましても[illegible]ます、たゞお年寄りの方は今まで長い間大變な苦勞をなさつて下さいました、今後私たちは率直に努めねばならぬと思つてゐます

そして時局柄婦人會のことも一生懸命働かせてもらふつもりですが、先づ家を守ることが銃後婦人の最も大事なことであると存じます

婦人手帖
むだ毛を ―剃る時のコツ―

お顔のむだ毛もあまり濃いとおかしいもので化粧映えしません。さつぱりと剃つておくとですが、しかし顔は、生毛が顔に合つてゐる人は取り過ぎると却て感じがかたくなりますから、適當にみぐるしくない程度に致します。顔立のはつきりした人や、額のせまい人はさつぱり剃つたはうが宜しうございます。剃ります、顔に毛拔きで一本づつ拔いてとゝのへます

剃刀を使ふ前にはいきなりですと肌を荒しますから、オリーヴ油を塗つて、蒸しタオルで蒸してからいたします、なほ、額のむだ毛はとつても結構ですが、額をひろくするためにお嫂の毛まで拔くと際がはつきり分りますから御注意下さい（櫻井靜子）

科學ニュース

◇食物中のヴイタミンＡが不足すると聽力が弱る事は誰も知つて居るが、ヴイタミンＡの不足が聽力にも關係のある事が判明した、この事實は年齢の若い動物で觀察されたのである。ヴイタミンＡが不足すると、内耳の骨構造が異常に發達して聽神經の機能を害し、之が永續すれば聾になる事もある

京城府本町四丁目一三一 印刷業 合資會社 谷岡商店 電話本局 [illegible]

京城府櫻井町一丁目 合資會社 野津集文堂 電話本局一七二四番

京城羅紗商組合

京城府若草町二 ワタナベ美容室 電話本局九六一九

朝鮮火藥銃砲株式會社 京城府南大門通九ノ二八

謹而奉賀皇紀二千六百年之新春
祈皇軍武運長久

京城府南山町二ノ一 株式會社 京城俱樂部 電本一三六〇番

根木久作 京城府南大門通

高橋伊平 朝日海上火災京城支部

京城府岡崎町九二番地 合資會社 龍山精米所 電龍一五〇九番

京城府元町一丁目一〇四 朝鮮製綿株式會社

京城府本町三丁目 藥種貿易 株式會社 北島藥店

朝鮮金融組合聯合會 土屋傳作 山根譓 齋藤清治 松木節郎

京城府太平通一丁目二十五番地 朝鮮製錬株式會社

京城府西界町一九四番地 當房有次郎 電話龍山七八九番

明治生命保險株式會社 京城支店

京城軌道株式會社

京城府東四軒町三五番地ノ二 株式會社 三宅組

郁文堂新聞舖 中村郁一 京城

盛文堂新聞舖 萩森秀市

京城府本町二丁目 花月本店 電話本局 〇〇〇 〇三〇 四三五 三〇七 番

戊辰會

京城府大島町三十二番地 水道器具部分品 青葉製作所 武井千萬人

京城府本町一丁目五十三番地ノ一 朝鮮開拓株式會社

京畿道高等官 食堂員一同

漢江水力電氣株式會社

京城府旭町一丁目一〇〇番地 阪本治作藥品部 電話本局四五八六番 振替京城七七九〇番

京城府太平通一丁目四十番地ノ二 合資會社 多田工務店 電話本局長(2)六三四番

京城府古市町十二番地 日本ヒューム管株式會社 京城支店 電話本局長 六一九 九五三 九三四番

京城府南大門通三丁目九十五番地 小林商事合資會社 電話本局(2) 〇六七〇 六二〇 九三番

京城府元町一丁目 株式會社 カナヘ商會 電話龍山(4)一五一番

謹而奉賀
紀元二千六百年之新春
併祈皇軍之武運長久

東草港 繁榮會

東草面長 朴祥喜

雪岳小學校 監理者 三輪菊治郎

金在洸

土城面 警防團一同

鐵原邑 割烹料理 柳屋 電話一四一番

東鐵原驛前 鐵原牧場 阿部正雄 取次電話六五番

東草[illegible]會

襄陽警察署

大浦金融組合

東草港 東海組工場

大浦港 川村罐詰工場

東草港 黑猫食堂

東草港 御料理 叶家 栗屋好郎

東草港 警防團

東草港 狹場泰一郎

東草仲買人組合

東草漁業組合 職員一同

朝鮮運送株式會社東草營業所 主任 伊藤俊治

鐵原邑 木村農場 木村忠治 電話一七一番

京元線月井里驛前 朝鮮産業株式會社 鐵原出張所

鐵原郡郵便局 職員一同

鐵原稅務署 職員一同

鐵原朝鮮酒々造組合 職員一同

鐵原邑 道立鐵原醫院長 池澤實

江原道北部醫藥同人 金剛醫友會

中央水利組合 電話一一三番

帝國生命保險株式會社 朝鮮火災海上保險株式會社鐵原代理店 多田儀市郎 電話二〇三番

鐵原邑 江原蠅叺會社 電話一六〇番

朝鮮京元線鐵原驛前 宅扱承認店、計算交付店 協同組運送本店 代表者 張成龍 代表電話一四二番

鐵原 油部 食料品 雜貨 杉原文一郎商店 江原道鐵原 電話一〇〇八番 振替京城一〇四三番

六合商會 代表 李昌殷 電話三二・一六二番 振替京城二九五〇番

朝鮮中央無盡株式會社 鐵原出張所 京元線鐵原邑內

鐵原邑 元山大橋組 三支鐵工所 鐵原出張所 電話二〇九番

京元線鐵原邑 載坤鐵工所 電話一五三番 振替四七一番

鐵原邑 學校組合議員 吉原拾左衛門 電話二〇五番

鐵原郡月井里 月井里郵便所長 北川榮一

鐵原驛長 山田常之助

鐵原保線區長 仲道森彦

鐵原邑 重信齒科 院主 重信

鐵原名物 米の菓子本舗 西村商店 電話一一〇番

江原道鐵原邑 江原道北部穀物協會 電話二四一番

月井里驛前 和信運鎖店 主 辛正仲

鐵原邑 李德一 電話一四三番

鐵原邑 朝鮮料理 大和館 電話五一番

鐵原邑 學校組合議員 大野鎌吉 電話八〇番

鐵原邑 鐵原劇場 電話二二五番

鐵原邑 邑會議員 中央水利組合議長 植田春見

江原道鐵原邑本町 鐵原藥局

鐵原驛前 旅館 鐵原館 電話四十一番 振替京城八一六一番

鐵原驛前 望月食堂

鐵原邑 學校組合議員 笠田豐

鐵原邑 中村政藏 電話一一三番

鐵原邑 東洲金融組合 電話二一番

鐵原郡農會
鐵原郡食糧配給統制組合
愛國婦人會鐵原分會
日本赤十字社鐵原郡委員部
鐵原郡木炭改良組合

鐵原邑 鐵原邑警防團長 鐵原邑會議員 上坂宇八 電話二一二番

鐵原警察署

月井里驛前 甲乙精米所

月井里驛前 於雲水利組合

江原道鐵原邑 京春鐵道株式會社 旅客自動車部鐵原支店 職員一同

鐵原邑 金融倉庫株式會社長 鐵原邑會議員 尹德昊

鐵原郡北面長 李普淵

鐵原邑 道會議員 小宮山八郎

鐵原邑 鐵原武道有段者會

鐵原邑 鐵原金融組合 電話一四番

金剛山電氣鐵道株式會社

鐵原邑 鐵原第二金融組合 電話一六九番

鐵原邑 鐵原邑會議員 商工會副會長 中下岩太郎 電話五八番

鐵原邑 殖産銀行支店長 布甚作 電話二四番

鐵原醫師俱樂部
協成醫院 電話一三二
鐵道醫院 電話五四
救世醫院 電話一一
中央醫院 電話二〇七

京元線月井里驛前 於雲水利組合長 萬木喜太郎 農事經營 ◎朝鮮運送代行店

鐵原高等女學校長 德田清克
鐵原小學校長 神谷六三
鐵原南小學校長 吉尾勳
鐵原農民學校長 矢野次郎吉

京城府長谷川町 備前屋旅館 廣安重郡

朝鮮油脂株式會社 社長 松本伊織

日本水產株式會社 朝鮮支店

朝鮮上海火災保險株式會社 社長 石川登盛

京城府瑞麟町一番地ノ一 協同油脂株式會社 社長 大島良士

京城府明治町一丁目ノ三六 三和株式現物店

朝鮮煉炭株式會社 社長 黑木吉郎

京城府南大門通り五 北鮮製鋼所 京城營業所

京城府黃金町三丁目六三 和洋帳簿製造並に活版印刷 金田製本印刷所 電話本局二二五七番 振替京城二二六七番

朝鮮金融組合聯合會

朝鮮漁業組合中央會

朝鮮製藥合資會社 社長 須藤久左衛門

京城府京町十一番地 東亞工業株式會社 電話龍山三五二一・三三二二番

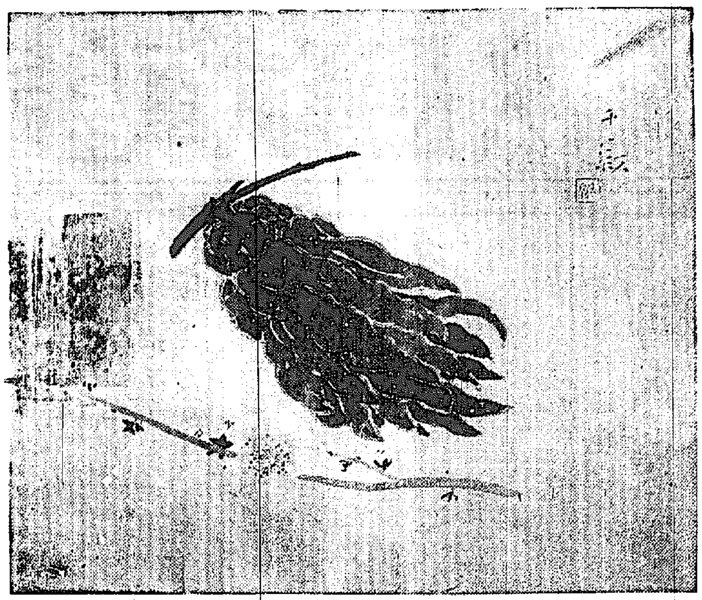
京城府南大門通五丁目 京城紡織株式會社

朝鮮信託株式會社 社長 谷多喜磨

京城府南大門通二丁目百二十番地 堀井謄寫堂京城出張所 堀井新治郎

瑞春

鄉倉千靭（院同人）



朝鮮二題【下】

吉井勇

金玉均

今からもう廿年近くも前、市川猿之助君が本鄕座で上演した「金玉均」といふ戲曲は、小山內薰氏の書いたもので、數多くの短い場面の戲曲した當時としては變つた形式のものだつたゞけに、一般の觀客には、それほど興味を持たれなかつたやうだつたが、私にはひどく面白かつた。

この「金玉均」といふ戲曲は、「大原君」「岩田周作」と併せて三部曲を成すものださうであるが、最も面白いだらうと思はれる、日本に亡命してゐた時代の金玉均の日本名を題名とする、「岩田周作」の一部は、遂に書き上げられないで終つてしまつた。しかしこの「金玉均」も、小山內氏の數多い戲曲の中では、「息子」や「ゴルドン將軍」などと同列に置かるべき、傑出した傳記劇であつて、舞台に於ける猿之助君の熱演は、今でもまだ私の目に殘つてゐる。猿之助君は韓國の志士といふよりも、むしろ淚もろい鬪劇者として演じてゐたから、事が敗れて日本へ遁れる、船の甲板のうへのところなどは、實に哀切を極めてゐて、あの最後の幕切れ近く、迫つて來る力を忘れることが出來ない。

金玉均の現はれる芝居では、私にはもうひとつ少年時代の極く薄げな記憶がある。それは日淸戰爭の頃のことで、劇場は何座だか忘れてしまつたが、劇團は伊井蓉峰、佐藤歲三、水野好美などといふ人達だつた。大鳥圭介と袁世凱の談判の場や、松崎大尉の戰死の場や、閔妃が召集令の來る場面は、まだ私の目に、斷片的に浮んで來るが、何よりもその時の芝居の中で、私の胸に強い印象を殘してゐるのは、夜の王宮の寂しい一室に、青い燐のけむりとともに、幽靈として現はれる金玉均の亡靈の眞つ白い眼も冴た姿であつた。

金玉均のことを書いたものでは、まだこの外に秋田雨雀君が、上海で暗殺される場面を書いた一幕物の戲曲などがあつて、私にも何なり親しい名前になつてゐたが、その後私は古いトランクの中から、新聞紙に包んだまゝの金玉均の書幅を發見して、私の祖父の三昧居がこの亡命の志士を多少世話をしたことがあるのを知つた。

その書幅といふのは半折に詩を書いたもので、先づ「甘年卅歲に至り、詩一絶を吉井先生閣上に呈す」と記してから

白髮逆下水波を揚す
船尾の西風酒を醒せて至る
陰風怒へず航路黑く
萬家の燈火殘星多し

といふ詩が、何處か凄愴の氣を帶びた、一種ある書體で揮毫してある。詩はどうも私のやうな素人目で見ても、あんまり佳作とは思はれない。

この詩を讀んで私は金玉均が誰からか大石內藏之助が世人の目を欺ますために遊蕩に耽つたといふ話を聽いて、それ以來狹斜の巷に出入したといふことを思ひ出して何だか、ちよつと御苦笑といつたやうなものが感じられた。若い時の無邪氣さとでもいふのだらうか。

新しき創造へ【2】

朝鮮文學の現段階

兪鎭午

以上のことを裏返しにして、文學を主體として考へてみるならば、それは朝鮮の新文學そのものが、いよく本格的な展開をみせ始めたといふことになると思ふ。勿論々いはれて來たやうに、朝鮮の新文學運動は、極めて短い年月の間に西歐の數世紀、內地の七十年に亘る發展の跡を辿らなければならなかつたので、近代的な啓蒙運動がやつと始まつたと思ふと、もう大戰後の混亂が入りこみ、世紀末とマルクス主義が同居し、新文學の確立がまだ出來てゐないのに、もうその革新の試みが行はれるなど文字通り眼睛に遑ないやうなめまぐるしい變遷を經て來た。だから、作家たちにとつては、ぢつくり腰を据ゑて自己の文學の質的飛躍を圖る暇がなかつたのである。何主義何主義と聲を大きくして叫んではみたものの、その主張を裏打ちするやうな立派な作品は、曉天の星のやうに寥々たるものがあつた。文學といふものは、一の呼號によつて立ちどころに成るものではなく、先づ立派な傳統がなければならず、次には作家の精を削るやうな精進がなければならないものである以上、朝鮮の新文學運動が過去三十年間、ひたすらその地均しにのみ從事して來たと強ち作家の無能ばかりを咎めたてるべき性質のものではない。が、マルクス主義の輸入を以て、「主義」の輸入が一應終焉を告げると、朝鮮の作家たちも漸く、自分の頭で考へ、自分の眼で見、いよく自分の文學を創造すべき段階に立ち至つたのである。

固より私は、朝鮮の新文學運動が過去三十年間に何等の業績をも殘さなかつたといつてゐるのではない。却てその反對である。この例へば李光洙氏の如きは、三十册に近い著作を世にものしてゐるし、洪命憙氏また「林巨正傳」八卷一萬數千枚の大長篇をものせられ、今なほその完成に心血を濺いでゐられる。その他の作家たちもまたそれぞれ相應の作品を出してゐることいふまでもない。が、今までの仕事は何んといつてもまだ地均である。それに年齡からみても、朝鮮の作家たちはまだ若い。前記李、洪兩氏ですら、まだ五十前後の壯者に過ぎず、その他の作家たちに至つては殆ど全部が卅から四十前後の若さである。彼等の一生のモニュメントとなるべき作品を書くのは、何んといつても「これから！」のことに屬すると、いはねばならないであらう。かやうな文壇的な成熟期と、作家的な成熟期とが一致して、こゝに文學の質的、飛躍的發展となつて現はれたのである。

評論界の動向についてみても、同じやうなことがいはれ得る。主潮の移動に忙しかつた四五年前までは、內地の雜誌に目星しい論文が載ると、翌月にはもうそれが換骨奪胎されて、朝鮮の雜誌に現はれるといふやうな有樣であつた。評論家たらんとする者は、それをしなければならず、且それで十分であつた。が、現在では、それだけでは通らなくなつたのである。このことは、朝鮮と內地との文化的交流がますく緊密になつて來た今日、一寸奇異に響くかも知れないが、ますく緊密になつて來たからこそ、却て同じものゝ受賣りではいけなくなつたのであつて極めて當り前のことであるといはねばならない。卽ち作家も評論家も自分のものを持たずしては一本立ち出來ない世の中に、いつのまにかなつたのである。

朝鮮文壇における昨今のトピックを一つ二つ拾ひ上げてみるならば、この間の事情は一層はつきりして來やう。以前は、內地において問題とせられないものが朝鮮でだけ問題にされるやうなことは殆どなかつた。が、最近は朝鮮文壇獨自の問題がどしく壇上に上せられるやうになつた。例へば今年のかなり重要な論題の一つであつた「新世代論」などもその一つの例である。內地では、最近著の帝大新聞紙上で、籠山信一氏が「新世代の動勢」としてこれを取上げてゐる外、あまり問題にされてゐないやうであるが朝鮮文壇では既に年餘から喧しく論ぜられて來た、しかも論旨は兩者大いにその傾向を異にしてゐるのである。

年立つ

石榑千亦

新らしく大き亞細亞も生れいでむかがやきにみちて年たちかへる

美しく又美しく春は來ぬ翁を一人ここにのこして

天の下武裝をときてなごやかに賀詞いひかはす春來れとく

戰雲はいまだも深し年と共にとく吹きおこれ伊勢の神風

大年の神にのむらくこの年はわかき男兒の血をまもりたまへ

不連續線

節酒

「あら、どうなすつたの」

「濟まん、濟まん」

「隨分、醉つてらつしやるのね」

「つい、その……」

「つい〳〵何もありませんよ。二千六百年記念のために、禁酒なすつた筈ぢやありませんか」

「禁酒といふと語弊があるな」

「ぢや、何ですの」

「まあ、節酒さ」

「今になつて、そんなにいひ逃れなんかなすつても」

「いや。それは初めから斷つてある筈だぜ」

「何て」

「絕對禁酒といふことは、いふべくして行はれ難いことだから、そんな行はれ難いことを誓ふより、手近なことを實行するつて」

「その手近なことは何ですの」

「節酒さ。節は節米の節で、酒を飮む機會を少くするのさ」

「でも、現にベレケですもの」

「結婚式とか送別會とか、さういふ正式の宴會は別として、おでん屋だのカフエーだの、金を出して飮むところへは、絕對に行かないことにすれば、隨分節酒ふぜ」

「ぢや、けふは、そんなところぢやなかつたんですの」

「歲り前さ。御年始に行つたんだ。三輪のところから、小島、大川、村山、長谷川、山口と、何でも六七軒飮み廻つたよ。當然ゼロへだぜ」

「呆れた方ね」

『翼の人々』を觀る

東京帝大航空研究所所員 山本峰雄

米國へ留學した際觀ようと思つてゐて遂に果さなかつたパ社映畫「翼の人々」が、統制下の日本において觀覽出來ようとは夢にも豫想へてゐなかつた。

伯林で獨逸航空の發達史をゲーリングを中心として物語つた航空映畫「プール・ル・メリツト」を觀て、このやうな映畫を是非日本の大衆の觀覽に供したらと考へてゐたのであつたが、今「翼の人々」が日本の大衆に供給されるのを知り、非常な喜びを感ずるのである。

「プール・ル・メリツト」と同じくテクニカラーの映畫は人々の心をより強く捉へるであらう。テクニカラーの航空映畫における效果は如何に高く評價しても過ぎることがない。畫空における深く蒼い空の色と感じを表現するとは航空畫家の至難とする所である。雲や地の色といふものは、テクニカラーにして初めてその味が出る。「翼の人々」は何等の無理もなく飛る自然的に航空を築き上げて行く、其處に我々は技術と魂との融合を見出して、かくの如き時代の一瞬も早き實現を期するのである

講談 大力辰藏

悟道軒圓玉演

元和元年大坂落城以來、天下は泰平となつたが、血腥い中を往來した所謂戰場生殘りの勇士等は何となく物足らぬ世の中であつた。茲において旗本は黨を組んでこれを銀杏組、或は白柄組なぞといふ。これを大久保彥左衛門が一頭として、公方の尻押組といふ名稱を付け、我々は譜代の臣である。彼の大名どもは且には豐臣の御機嫌を伺ひ、夕に德川のお鬚の塵を拂ふ、武士にあるまじき追從して數萬石を領した二股武士とは大に異り德川家が三河の安祥に困られた頃より、艱難辛苦をした眞の武士である。ソテ見れば賴みにならぬは今の大名、君に背くやうな行爲があらば、我々は死を決して彼等二股武士を討ち、お家を安泰に治めねばならぬ。俺こそ公方の尻押組といふ名稱をつけた。この旗本の中に二千石を頂戴する阿部四郎五郎といふ者があつた。此は二番町にあつて旗本としては大身の部であるから比較的余計も豐なもので、その頃の武士は常に旗本でありながら御番に、或は勤番と若徒に用人、仲間に下女、馬が飛脚と共に二頭、馬丁が二人、その他には隅部を掃く隅尺位なもの、不必要の人間は一人も居ない。

スルトこの中に辰藏といふ仲間は信州善光寺在から出て來て、阿部の家に奉公したものであるが、性質至極で從つて實直に勤き、少しも陰日向がない。ソレに田舍訛であるから時々大笑ひをさせる。阿部はこの辰藏に酒の酌をやらせながら、からかふのを何よりの樂みとして居る

「辰藏、信濃の國は信濃だとか申したナ」

「ハイ、善光寺の檀家と云ふ所でございます」

「ウン、米なぞは出來まいナ」

「馬鹿ア云はねえもんだ、米に蕎く收穫ますよ」

「僞りを申すナ、信州の奴は甲も乙も蕎麥ばかり食つて居ると云ふ事だが、貴樣なぞやはり蕎麥のみ食べてゐたであらう爾來貴樣の事を蕎麥と呼ぶから左樣心得ろ」

「殿樣、ナンナ事を云はねえもんだ、ソリヤア、ヘア山家の者は蕎麥を食つて困るかも知んねえが、俺どもの方では、蕎麥は食はねえでがす」

「何を食ふナ」

「稗を食つたり、粟を食つたりするで」

「粟も稗も同じやうなものだ、何でも宜しい爾來貴樣の事を蕎麥と呼ぶから」

辰藏が迷惑さうな顏をするを見て四郎五郎は笑ふ

「コレ蕎麥は困るか、蕎麥─」

部屋で草鞋を造つて居た辰藏

「又始まつた、何うしてヘア、俺の殿樣はアンナに意地イ惡いだか、蕎麥でも呼べ、辰藏と云はねえ相は返答しねえだ」

四、五遍呼んだが、答へがないので、四郎五郎が仲間部屋へ出て來た、

「蕎麥、何故返答いたさぬカ」

「俺の名は辰藏でござりますだ」

「生意氣な事を云ふナ、稗を食つて居れば蕎麥ではないか、是から向島より千住の方へ遊びに參る、供を致せ」

「へエ」

「支度しろ」

いひ捨てゝ出て行く、辰藏は玄關へ來て、フト見ると、駕籠が一挺橫着けになつて居て、其の傍へ大きな石が下つて居る、妙な事をしたものだと辰藏は不思議さうに首を捻つた所へ四郎五郎はサカ〳〵と玄關へ出て來たが、

「蕎麥、この駕籠を擔いで行け何といふ顏をする、貴樣が擔いで行くのだ」

「是はハア、魂消けた、駕籠を擔ぐ者は陸尺の役で無えか、俺は草履取仲間でがすぞ」

「イヤ、今日は陸尺の役を貴樣にいひ付ける、擔いで參れ、但し主命に叛くか」

「何うもヘア無理へ云ふだネ」

「親と主人は無理な者と思へ」

「勝手な事ばかり云はしやつて」

「彼是れ申さず駕籠を擔げ」

「擔がねえことも無エだが、片棒は誰が擔ぎますか〳〵」

「片棒は、その石だ」

辰藏目を圓くして

「殿樣、冗談云は無えもんだ、石を相棒にして駕籠が擔げるかネ」

「擔げぬ事はなからう、貴樣は大力だと聞いて居る、石を後方に下げて擔げば釣合も宜からうから、ソレを相棒と思ふと擔いで參れ」

と、四郎五郎は駕籠に乘つた、辰藏も仕方がないから、肩をいれてスタ〳〵擔ぎ出したが、往來の人は足を止めて見送る、番町を跡に上野へ出て、アレから淺草寺へ來左へ切れて待乳山の下、山谷堀を越えて隅田堤へ來た。

四郎五郎は駕籠の引戶を自から開いて、隅田川の風景を見て獨り悅に入つて居る、時しも九月下旬蘆の間から折々雁立つ風は冷えきに白眉を開いたやら、吹き來る風に誘はれてバラ〳〵と、落葉も何となく淋しげがある、向ふの百姓家で打つ砧の音は誰が衣を作る爲めか、北に筑波山を一抹ぬつたやうに見えるは筑波山、西に白雪を頂いて雄大の姿を現して居る富士山、

「好い景色だナ、何うだ辰藏、少しは勞れたであらう」

「別段勞れもしねえが、モー少し歩いたら休まして貰ひますぞ」

隅田堤を一直線に進んで千住の大橋へ來た

「殿樣、ココデ少しぺエ休まして貰ひます」

と云ひながら、橋の中央へ駕籠を持つて來たが、欄干を越して、ヌーと駕籠を河の方へ突き出したが、肩の石はブラ下つて居る、今まで辰藏が肩を當てた所を欄干へタウト當て

「殿樣好い景色でございますナ」

四郎五郎驚いた、直に眼下は荒川の急流、辰藏が手を放せば直ちに駕籠は落る。

「コレ駕籠を其方へ遣れ、ココへ出しては危い、モシ落ちたら何とする」

辰藏はニヤ〳〵と笑つて居たが懷劍を出して駕籠の綱を欄干へ括り付け、松の根の付いた紙燭草を出して、バタ〳〵と煙を吹き

「殿樣、何うだネ、怖かねえか、ウフ、落ちたが最期四郎五郎改め土左衛門とならなければなんねえ」

「コレ戲れをするナ、危い」

「アハヘ殿樣、人我に辛ければ我亦人に辛しとやら、殿下は俺の事を蕎麥々々と云はしやつて、其の上、一人で駕籠を擔げなんと無理な事べエ云はつしやる、謝り俺にハア辛く當るだの、ソコで俺も辛く當るだア、サア何うだネ、以來俺の事を蕎麥と云はねえと誓文さつしやれば、此の駕籠をこつちへ入れべエが、何うしても蕎麥と云はつしやるならばココデ此の綱を斷つて河の中へ蹴込み遊下を放り下すだが、ニヤ返答さつせえ」

剛腹な四郎五郎も之れには閉口した、

「以來は必ず蕎麥とは申さぬ」

「それならば勘辨するべえ」

と駕籠を手許に引戻して、肩を入れて元の隅田堤に戻つたが、この事を以て關に冒けると同時に辰藏は暇を願ひ出したが、是より十年たつて、阿部の許へ尋ねて來たは東谷五郎兵衛と名乘る立派な武士、是ぞ辰藏の成れの果てであつた、阿部の邸を出てより一刀流の劍道を學び今では稀町に道場を開いて多くの門弟を取立て諸大名にも出入致す某藩の名の劍士となつた。四郎五郎も是には嘆いた、ソコで御前岡山の池田侯に申入れてこの五郎兵衛を指南役に推したといふ。下郎辰藏成功談はこれにて終り

咸南 前津漁業組合 電話九番

咸南洪原郡 西洋物商 北島商店 電話洪原五九番 振替京城一三五〇三番 電略（キ）又ハ（キタ）

咸南前津港 昭和水產工業株式會社 電話二三番

洪原邑內 喜樂園

洪原邑 東西醫院 電話五八番

咸南洪原（前津驛前） 北鮮釀酒株式會社洪原出張所 世和商會

咸鏡南道洪原郡洪原面南堂里二七 合資會社 德興商店

洪原邑 宋鼎和

洪原邑內 西藥商 津龍藥房

洪原邑內 中華料理 鎭海樓

前津水產物製造輸移出組合 組合長 金秉熙 理事 金秉龍 〃 金秉南 〃 姜河求 監事 韓鎭洙 〃 高敬昊 〃 李昌鉉 書記 康孝備

咸南洪原郡 劉義穆

朝鮮咸南洪原邑內 石油肥料建築材料 咸興刑務所製品販賣所 沃昌商店

朝鮮林業開發株式會社 洪原森林保護區 趙平元

咸南前津港 前津旅館

咸南洪原邑 洪原藥房 電話一〇六番

李榮楨

咸南靈武郵便所

丸世運輸組

咸南洪原邑 前津精米所 德興精米所 洪原精米所

水產加工品製造元 食料品商 新珍屋

前津港 金網鎬出張所 主任 金世昌 電話三二番

前津港 貿易商 李昌鉉

咸南洪原邑 富吉旅館 電話六九番

咸南前津港 池邊健吉 電話四四番

咸南洪原 各官公署

咸鏡林業 下碣製材所

咸南下碣 池明湖

長津郡下碣 上平田篤

長津澱粉販賣組合

咸興合同木材株式會社 下碣作業所

咸南下碣 料理 江界館 電話二八番

咸南下碣 朝鮮運送株式會社 下碣營業所 電話九番

咸南下碣 林在苑 電話三三番

下碣 土木建築請負 共榮組 電話三三番

咸南下碣 咸興合同木材株式會社 指定供給所 電話三〇番

咸南前津港 水產業 李鍾吉

咸南洪原郡 新川商店

咸南洪原邑 洪原酒造場

前津驛前 朝鮮運送株式會社 前津營業所 電話四六番

咸南洪原邑內 咸興タクシ洪原出張所

咸南洪原邑內 金貸組合 電話八番

申基柱

東盛商會洪原支店

咸南洪原邑 洪原醫院

咸南下碣 金泰京 電話三三番

咸南下碣 藥種貿易 北海堂藥房

咸南下碣 米穀雜貨 金澤商店

咸南下碣 新興百貨店 李俊夏

咸南下碣 木材業 林忠錫

料理 榮月館

順安寫眞館

永河商店

長津郡北面梨上里 江界水電會社堰堤工事 元恒植

咸南長津邑 太田屋

長津邑內 太陽館

長津郡北面梨上里 江界水電工事 韓基恒

咸興タクシー株式會社 長津營業所

龜城商會

協同工業 代表 朴在○

コンチリン特約店 榮堂藥房

上林林業事務所

長津邑內 長津商會

咸南長津邑 口滿食堂

咸南長津邑 信一商會

長津邑內 新設冷麵屋

長津理髮館

ひかり寫眞館 主 崔根植

熙川屋

京城屋

長津郡長津面邑下里 木材商 長林商會 朱在靖

長津邑內官公署 同志俱樂部一同

長津郡長津面邑上里 日之出寫眞館 主 金榮琡

長津邑內 咸興館

咸南 長津郡廳 下碣警察署 新南面事務所 新南公立尋常小學校 下碣金融組合 下碣郵便所 下碣煙草販賣部 下碣公立尋常小學校

長津線下碣驛前 長津江製材所 直營家具部 電話一三番

咸南下碣 請負業 金德練 電話二九番

新乫坡 新乫坡薪炭合名會社

新乫坡 官民申合會

新乫坡 木材業 玉置知之助

賀紀元二千六百年之新春併而皇軍武運長久

朝鮮會寧 販賣品一式 岩松龜藏商店 電話二〇六番 振替京城一二〇七三番

會寧 內地人飲食店組合

おでん 御料理仕出し 御會席 初音食堂 電話會寧二五九番

チルド車輪、高級鑄物 機械部品、鮮瓮、農具 小島鑄造所 咸北會寧南門外

會寧驛長 河田繁友

御料理 御仕出し 御待合 柳屋

會寧商工會 電話一六九番

會寧材木商組合 電話一六九番

會寧本町 土田時計店 電話一七二番

會寧郡町 廉谷本店營業所 電話一五二番

會寧營林署 職員一同

咸北會寧 會寧券番 電話一一九番

會寧劇場前 御料理 御仕出し 生そば 彌生 電話三四八番

會寧驛前 小澤寛

御料理 仕出し 食堂 ダイヤ 電話四二番

會寧邑 安江兵吉

各映畫封切 桝田映畫部

會寧郵便局 職員一同

會寧北新地 食堂 日出丸 電話二三九番

會寧本町 木村齒科醫院

土木建築請負業 松本國光 電話十五番

自轉車部 カバン部 原田商會 電話四一番

耐火煉瓦製造業 伊藤林藏

會寧貸座敷組合

北鮮合同電氣株式會社 會寧支店 (特)電一四五番

加賀商會 電話一四八番

會寧旅館業組合 時局柄年賀狀ヲ欠禮シ紙上デ御挨拶申上マス 博多屋旅館 會寧屋旅館 松屋旅館 丸中旅館

土木建築請負業 藤田組 藤田猶吉 電話一六四番

咸鏡北道會寧邑 朝鮮合同木材株式會社 (特)電話一五五・一二九番

咸鏡北道會寧邑 岩村鑛業株式會社 社長 岩村長市 (特)電話一一番・二四一番

咸鏡北道會寧 弓心炭鑛礦業所 (特)電話一一一番

會寧本町 雜貨卸商 前田政商店 電話一七二番

會寧土曜會 朝鮮商業銀行會寧支店 朝鮮殖產銀行會寧支店

會寧カフエー組合

樂器運動具 スズキ樂器店 電話三三八番

會寧驛前 秋山鐵工場

土木建築請負業 初見政彥

會寧邑 貴船組出張所 貴船健明

原木製品 丸三商行 三田三樹三 (特)電話二二三番

會寧營林署長 門馬博 電話三四四番

會寧 咸北無盡株式會社 會寧支店 電話一三二番

御料理仕出し 美よし 電話二二六番

朝鮮會寧大正町 食料品卸問屋 横山商店 店主 横山源兵衛 電話三三番・電略(ヨ)又ハ(ヨコ)

朝鮮咸北會寧 畜產貿易 高橋宗夫 電話三〇五番

會寧酒造組合

會寧公立學校園

火藥類 鐵材 丸釘 平波鐵板 鑛山用品 土工用品 礦油類 咸北會寧銀座通 合資會社 小島商店 電話一六番

清津府廳

清津警察署 署員一同

清津郵便局

咸鏡北道機船巾着網漁業水產組合

咸鏡北道輸出鹽魚水產組合 朝鮮機船底曳網漁業水產組合

東洋拓殖株式會社 清津支所 支所長 山本圭四郎

清津漁業組合

清津府港町水產ビル 三井物產 清津出張所

清津府港町十六商工會議所ビル內 淺野物產株式會社 清津出張所 電話三二六二番

清津海陸作業株式會社 社長 岩田遂

清津府果菜市場 清津青菓市場株式會社

清津府港町四番地 三菱商事 清津出張所

羅津府昭和通り一丁目國際ビル 滿洲特產物 對日輸出北鮮組合 電話六五五・六三一番 電略(ラシントクサンホクセン)

チルド車輪 西田鐵工所 清津府浦項洞

清津府明治町 竹田石炭部 電話(長)二一六三番

咸鏡北道道會議員 尾崎逸平

清津府會議員 笠原三右衛門

清津府 松下和三郎 電話自宅二七九四番 營業所二六三九番 二四七四番

清津放送局 永井十太郎

清津府會議員 七條元次郎

清津府會議員 金原三郎

清津倉庫株式會社 專務取締役 高木捨吉

咸鏡北道道會議員 尹承鉉

鮮滿車體製作所 田島義晴

清津府會議員 志岐榮六

石田貞次郎

丸宗回漕店 明瀨秋廣

北船會
栃木商事株式會社清津出張所
朝鮮郵船株式會社清津出張所
大阪商船株式會社清津出張所
滿鮮運輸株式會社清津支店
國際運輸株式會社清津支店
嶋谷汽船株式會社清津出張員

清津木材商組合

清津土曜會

清津府浦項洞 和洋雜貨卸問屋 三重商店 李正煥 電話三四一〇番

清津星ケ丘 貸座敷組合

清津府浦項洞八九番地 龍井貿易株式會社 清津駐在員

サイトウラヂオ研究所 ゾンネフオノラヂオ製作所 齋藤樂器店 清津府明治町一三

清津府浦項洞雄基通 時計洗滌機械付各國時計販賣修理 明治時計店 姜錫鉉 電話三五〇八番

愛知縣販購聯指定店 臺灣青果株式會社代理店 北鮮生果組合 バナナ 鷄卵 配給店 竹中禧燿 清津府浦項洞十一 電話三四七〇番

咸北自動車株式會社

辰馬汽船株式會社 本社營業部 神戶市神戶區海岸通

北鮮合同電氣株式會社

清津府港町七番地 咸鏡北道鰯油肥製造業水產組合

アサヒ水壓機製作所 赤司健之
營業種目
アサヒ式直火熱風乾燥機
アサヒ式クッカープレス各種
アサヒ式直火クッカープレス各種
アサヒ式生鰮陸揚機各種
アサヒ式水平輸送機各種
アサヒ式クラッシャ各種
水壓機、蒸汽罐、貯油槽
其他漁撈機一式
營業所 大阪市港區九條南通一ノ一四二
出張所 清津商工會議所內 電話三二六三番

日鐵清和會 （イロハ順）
池本組
日本鋪道株式會社
日本ヒユーム管株式會社
日鐵清津三社會
東洋土木株式會社
東京基礎工業合資會社
合資會社勝呂組
武智組
株式會社大林組
株式會社八多組
合名會社鴻池組
株式會社青木組
株式會社佐伯組
株式會社清水組

國際運輸株式會社 清津支店

清津清交會
佐藤商店
森野和一郎
安村賢太郎
平田一郎
長井吉作
安村庄太郎
城崎才次郎
小杉商店
井川工業株式會社
七條元次郎
德弘要之助
中川淳平

清津漁港工業協會

清津丸金商事合名會社 城津丸金本店 代表者 金麟瑞

日本製鐵株式會社 清津製鐵所

兵站基地の誇に
一段の充實を加へん

殖産局長 穗積眞六郎

新東亞建設下における昭和十五年の新春を迎ふるに方り所管事項につき所感の一端を述べ年頭の辭に替へたいと思ひます

産金事業 昨年の朝鮮における産金額は資材の關係が思はしからず旱魃の影響等もあり、業者が一生懸命努力して呉れたにも拘らず豫期通りの成績を擧げ得なかつたのは遺憾であるが、本年は先づ第一に資材の獲得に全力を注ぎ、産金に必要なる設備の完成に力を注ぎ、以て本年こそ豫期通りの増産を期したいと思つてゐる

一般鑛業 金以外の鑛山に就ては先づ茂山鐵山の開發を本格化すると共にその他の鐵山も稼行價値が生れて來たものがあるので、之等の開發促進を圖ると同時に清津の製鐵所及び三菱のルツペ工場も順次本格的工事が進んで行くとなつて重要鑛物に就ては今や朝鮮として開發すべき好機であつて、日本全體から見ても戰時に備へるため是非増産に力を入れる必要がある、と同時に新規資源の探鑛まで充分整備して將來の需給に備へる方針である、殊に朝鮮では近年新しい重要鑛物が發見され昨年の如き螢石、カスミ石、雲母等非常に重要なる鑛石が發見されるやうになつたのであるが、今後共かう云ふ新しい鑛物の發見とか利用にも充分力を入れる積りである、朝鮮における鑛石の分布狀況を見ると朝鮮は近き將來日本の重要な地方となる重大使命を有してゐるから、重要鑛物についても當局業者と目標の趣旨により勘査、投資、その他調査促進のために必要な化學の出來る會社を設立して重要鑛物の開發促進に留意したいと思つてゐる

燃料問題 今日の燃料需給を徹底に對處するためには從來とは全く根本的に觀念を變へ、鮮滿の石炭に挑戰を加へねばならぬのでこれが增産を圖ると共に配給に一層努力すると共に關係機關の整備充實を圖り、併せて鮮炭の獲得にも一段の工夫を必要とすると思つてゐる

水産業 朝鮮の水産業は從來よく統一がとれてゐるが、漁場の關係から漁獲が一地方に偏在する傾向顯著である、これを大きく言へば漁獲が相當時期に偏してゐる憾みが依然として取り除かれないので數年來漁獲の調整に努力してゐるが、本年は特にこの方面に對して格段の努力を拂ひたいと思つてゐる

商工業 昨年政府を見た戰時統制諸法令の趣旨を業者に周知徹底を圖り、これが實行を本年中に完成せねばならぬのであるが、これは決して官廳のみの手では完成出來るものではないから一般の消費者の理解に俟つところが多いことを痛感するものである、一方適正價格の決定は迅速を必要とすると同時に一般の理解につき積極的に呼びかける必要があり、統制の強化して行く反面に於て生産力の擴充を強化推進して行くことが絶對的に必要なのはいふまでもないが、朝鮮半島の使命は現在並に將來における大陸兵站基地としての内容を充實することが絶對必要と考へる、この新しい時代に於ける生産力擴充方向に對しては極力邁進すべきであると思つてゐる

貿易問題 朝鮮の貿易は年と共に活況を呈しつゝあり昨年の如きも廿四億を超えたであらうが、その内容を仔細に檢討すると必ずしも滿點とはいひ難いのであつて、本年はこの點を深く考慮して對內、對外貿易共に第三國に對しては當初から萬般の準備を整然たらしめ貿易に更に新生面の開拓を圖りたいと思つてゐます

これを要するにあらゆる方面に於て本年が物資の點からみて一番困難が多いと考へるので、少い物資を有効に利用して積極的施策の本領を發揮して行くのが最も必要な仕事である、これがためには非常な決心と計畫と實行力が必要とする事である、このことは充分覺悟を要するもので一段の協力を切望する次第である

生擴の現段階と
統制經濟の前途

岸商工次官

生擴政策の地位

近時 の世界における政治的經濟的不安が、各國をして自國を中心としてその勢力範圍内の地域を綜合し經濟的なる政治的、經濟的ブロックを結成して、以てこの不安に對處せんとするの態度をとらしめ、その爲に各國において從來個人の自由活動に委せらるゝ事多かりし經濟の領域においても、國家權力による統制經濟が年を追ふて强調になつて行くことは既に今日何人も知る所である

我が 日本においてもかゝる新たなるブロック經濟の必要性は我國が比較的工業、經濟的に恵まれること少なく殊にその原料資源が海外依存の要が多かつた點からいつても、一層强きものがあつたのである、而して我國が今次の事變を遂行することにより支那民族と相協力し、新なる經濟的ブロック以上のより崇高なる目的と意義とを有する東亞新秩序を建設せんと努力してゐることも亦論を俟たない所である

かゝ る大目的を達成するがためには、經濟活動を專ら個人の自由に委し、經濟價値の增殖を至上目的とする個人の活動を放任し經濟機構の自然の調節を企圖するが如き從來の態度は、經濟界に徒らに混亂を惹起せしむるの所以となるもので、經濟統制を加へられねばならぬものとなり、こゝに經濟諸政策の轉換を見るに至つたのである

我々 は斯くの如き經濟統制政策出現の歷史を見ることによりそれ等諸政策の中において生産力擴充政策なるものが如何に重要なる地位を占むるかを容易に知り得る、即ち東亞新秩序に經濟的主柱を與ふるがためには、世界の自給場において自己の獨立存在を維持して行く上に必要不可缺の國防國家經濟の自給自足を可能ならしむる諸生産力を擴充することが最緊要事と考へらるゝのである

現在 行はれてゐる經濟統制諸政策についてその相互の關係を考へて見ても、我々はそれが如何に生産力擴充政策に奉仕するものであるかを知る、勿論それは現在の諸經濟政策中には種々の生産力擴充政策といふべきものが數多く存在するのである、現在生産力擴充政策と相並び重要戰時經濟政策の一とせらるゝ物資動員計畫の如きも亦[illegible]の側面なる進展を見ずしては到底これが目的を充分に達成することは不可能と考へられる、實に生産力擴充政策こそは現在諸經濟政策の赴く金線といふべきである、以下において吾人は我國における生産力擴充政策の發展と現狀に付き少しく論ぜんとするのであるが、紙面の關係上觀點を限定し、その財政、金融的側面の詳細なる說明はこれを省略することとせられ度い

「生産力擴充策」の發展と現狀

滿洲 事變に續く準戰時時代より重要國防經濟資源の自給自足を達成するが爲に諸生産力を擴充する事の必要性は次第に强く叫ばれて來たのであるが、昭和十一年頃より生産力の擴充なる事は廣田內閣の重要政綱にも掲げられ、それに對する具體的な措置も陸續と講じられて來た、然らばそれ等の措置は如何なる方法を以て行はれたかといふのに、當時において生産力を特に擴充するの要あると認められる各種事業に付、特別事業法を制定し各般の保護助成と指導監督を加ふる事に依り目的の達成を期したのである、例へば製鐵事業に付ては製鐵事業の增殖を計る爲「製鐵事業法」金に付ては其の增產を計る爲「產金法」を、石油に付ては液體燃料の供給を確保する爲「石油業法」「人造石油製造事業法」「石油資源開發法」等を制定し又金鑛、銀鑛、銅鑛、鉛鑛、錫、石炭等重要鑛物の增產を計るが爲に「重要鑛物增產法」を制定したのである

次に 自動車、工作機械、造船等に付ても夫々事業法を制定しこれ等重要事業の保護を講ずると共に海運の增大を計つて來たのである、事業法制定に依り目的の達成を計らんとする方法と並んで採られた方法は、特別法に基き特殊會社即ち所謂國策會社を設立せしめ、當該會社に對する指揮監督を通して其等會社の擔ふ重要產業界を監督せんとする遣方でありその具體的なる例としては我々は例へば日本製鐵株式會社、日本產金振興株式會社、帝國燃料興業株式會社等を擧げ得るのである、然るに今次事變の勃發はこれが擴大は我國經濟、殊に海外依存を困難ならしめ國防目的達成上生產力擴充の必要性は一段と深化すると共にそれが實現を企圖する諸政策においてもその飛躍的進展が要望せらるゝに至つたのである

此處 に於てか政府は企畫院を中心とし關係各廳とも協議の上遂に昨年一月所謂生產力擴充計畫を設定したのである、本計畫において企圖せられてゐる所は將來における我國の飛躍的發展に備ふるため國防產業及重要基礎產業に付昭和十六年を期し所要の目標に到達せしむべく日滿支を通じて生產力の綜合的なる擴充を計ることである

生產 力擴充計畫實施上の方針としては前記したる如く日滿支を通じて一體的綜合的に考慮してこれが遂行を期するは勿論、計畫遂行上多くの困難を豫想せらるゝ一般民間の向も十分に協力する樣定であり、且又生產力擴充が物資動員計畫の有力なる一環たる關係上之との有機的關係は常に念頭に置かねばならないと思ふのである

また側面工作として例へば資金の不急不要產業部門への流入を阻止する爲に資金調整法が、又物價高騰に依る目的遂行の困難を豫防すべく低物價政策が堅持されて居ることを注意せねばならぬ、本計畫は何分昨年一月に設定された次第であるからその後の經過を今に於て云々するのは些か早計の譏を免れぬが

歐洲 における情勢が急變したる爲生產擴充用資材の或物に付きその入手が困難となりたる事又勞務者不足交通運輸機關の不足等々の弱材料の存在にも不拘目下の所順調なる進捗を示してゐるが如く思はれるのである

我國經濟の前途

將來において我國經濟の態容が如何に變化して行くかは、今日の既に極めて複雜なる國際情勢下においては假に豫斷を許さぬものがあるが然し乍ら今日において明かに斷言し得ることは、今日の經濟活動に對する國家權力による統制の力が今後において強化されこそすれ緩められることはなからうといふ事である

世上 或は今日の經濟統制を以て單に支那事變に對應するものと考へ、事變終了すればやがては再來の經濟秩序に復歸するかの如くに考ふる向もあるが、かくの如きは大なる誤謬といはねばならぬ、支那事變の終了を以て我國の經濟的不安は決して解消するものではない、東亞新秩序の確立は却つて今後の經營に俟たねばならぬ、我國は他國をして一指をも染めさせざるが如き鞏固なる國防的、經濟的實力を具備せる東亞建設に向つて邁進せねばならぬ、最重要政策たる生產力擴充政策の如きも、それが高度の計畫性を與へられたるは極めて近時なることを想起する事によつても、今後の國家の經濟に對する統制に如何に多大な期待がかけらてゐるかを痛感するのである

然し ながら統制經濟が今後も引續くと云ふことは、直ちに現在の統制方法の安當性を意味するものではない、今迄の統制方策の中には事態の緊急に欠くを得ざる一時的應急策もあり、又一般經濟界においても斯く急激な且つ強度の統制を豫想せざりしために、若干の摩擦を生じて來たものである、我々はかくの如き經驗に鑑み、今後統制を行ふに當つてはこれから統制諸方策に體系を持たせ、諸政策相互間に矛盾の生ずるが如きことをなからしめ、經濟機構に組織を持たしめることの必要を痛感する、然しながら斯くの如き組織の完成は單に國家の力のみを以てしては到底不可能なのである、其處には民間經濟諸團體の全面的協力が必要である

統制 經濟の遂行が我々日常の生活に何等かの不便を與することは明瞭な事實である、然しながら我々は徒らに過去を顧みて現在の不便を喞する前に、此の過渡期を經て到達されんとする新しき經濟秩序、即ち經濟の公共性の自覺を基調とし資本主義時代の單なる企業心、創意心を多分に攝取せる經濟秩序において如何に有意義なる活動を我々が爲し得るかの希望に生くべきである【岸商工次官】

一億參戰を自覺
興亞聖業へ邁進せん

朝鮮商議會頭 人見次郎

◇……聖戰の輝かしき新光を浴びて茲に皇紀二千六百年の新春を迎へるに方り謹みて皇國の彌榮を壽ぎ寶祚の隆昌を祈り奉るは無上の歡喜にして光榮に堪へぬ次第である

◇……惟ふに我國が東亞興隆の目途として大陸に兵を進めてより日月を閲すること茲に二有半星霜、戰果漸く全土に及ぶと雖も新秩序の建設はその緒に就きたるのみで、更に歐州の動亂勃發と共に國際關係は複雜化し益々混沌化せる情勢に立ち至つた、即ち日米通商問題、日英會談、日ソ間の漁業乃至通商問題、日佛、日伊通商問題等何れも非常の困難に直面し歐洲政局の動向に影響を有せざるものはない

◇……今や年を新にすると共に外交問題が一層重大性をおびて登場し、國際的立場よりする事變處理が要請せられて來たものと考へられる、翻つて國內事情を一瞥せんか國家總動員法に基く統制法令の發動は漸次に行はれ、物價、物資の安定、生產の擴充等諸部門に亘り統制の方向が示され實施に移されたるもの、いはば戰時經濟の中軸を成す機構の確立が達成されたのであるが、これから益々統制諸機構を稼働するに伴ひ、末梢の關節々々までも活動させねばならない、即ち統制の機能を有效に發揮した經濟總力が全面的に動き出す所謂總動員期に入つたものと思料する。

◇……我が朝鮮が東亞ブロックの一環として與へられたる使命は茲に新に認識に對み直さねばならない、曰く「大陸兵站基地」「鮮滿一如」はこれを意味し且つ陸進せる限り半島の伸展は遲れざるを得ないであらう、幸にして貿易額は二十數億に躍進して大陸經營の基地たる貢献を保持せるは欣ばしいことではあるが、一面物心兩面に亘り統制强化の波は既々乎として押し寄せ若しこれを放任の儘に置くならば或は懸隔と化して到底收拾すべからざる事態に立到らないとも限らないのである

◇……尤も政府の時局に對する施策並統制法令の運用また慎重なるべしと雖も、官民一致協力を以てせずしては非常時局打開は至難である、而して官民協力の要諦たるや將來の如く官の威を以て臨むに在らず、また民間にありても徒らに苦衷を述べ不平を鳴らし或は彌縫的施設のみに終始するに在らずして全く私を捨てた協力でなければならない、斯る意味における協力が緊急に、且つ徹底的に行はれて初めて國策の遂行も其の所期の目的を達する事を得るのである

◇……自然を超ゆる廣大なる國策を遂へ、通貨の膨脹、公債の消化等財政問題は元より物資の需給調節、物價騰貴の抑制さては生產擴充、貿易振興等の經濟問題更には對外通商問題、歐洲動亂への關心、對英、米、ソ外交問題に至るまで昭和十五年における內外の情勢は多事多難、而も國家の總力をあげて興亞の聖業に集中すべき歷史的段階に直面し、茲に輝かしき皇紀二千六百年を迎へ吾等の責務として此することは國民の一人一人が其の自覺と至誠に基づき官民相携へて東亞の盟主日本の大使命達成に邁進せなければならないことであると確信する次第である。(完)

大陸第一線に立つ我ら
興亞の決意三度新た

南滿洲鐵道總裁 大村卓一

皇紀正に二千有六百年、聖戰下に新年を迎ふること茲に三度、皇威昭々として中外に輝き皇軍の征く處、連戰連勝し全支に輝かしき戰果を擧げ、興亞の大業は着々巨歩を進め東亞の天地漸く黎明の曙光を見むとす、感偶に御稜威の然らしむる處なりと雖も擧國一致官民協力克く時艱に對處し來りたる賜にして茲に感激に堪へず

△△△顧るに事變△△△下の滿洲は東亞新秩序建設の重大なる一環として政府、國策、財界の協力を得つゝあり、その大動脈たる交通を中心とし鑛工、調査其の他を擔當する我社亦新情勢に即應して飛躍的發展を遂げ來れり即ち交通部門に於ては滿洲國鐵道網の完成を急ぎ國境新線の建設を進めたる結果、昨年十月を以て會社運營鐵道は一萬粁を突破し大陸交通史に榮ある記錄を樹立せるの外國際自動車路線一萬六千粁、水路五千粁の運營を爲すに至れり

鑛工部門 においては撫順その他の炭礦より年產一千萬屯の出炭を擧ぐると共に、燃料問題解決に資するため頁岩油の大增產計畫を樹て、又多年研究中なりし撫順の石炭液化は昨年七月遂に工業試驗に成功し良質の液化油を產出するに至り、滿洲製鐵工場においてはその鋼材の製法たる特殊鋼製造により夫々國策に重大なる寄與をなさんとしつゝあり

調査部門 においては昨年容大調査機構を確立し東亞全般に亘る綜合調査を行ひ、以て東亞新秩序建設に適切なる貢獻をなさんことを期せり、本年度においては滿洲國の飛躍的發展の現下時局に對する國防上の要請に對へ我社は更に一段の躍進を爲さんことを期す

△△△先づ鐵道に△△△於ては第二次一萬粁へのスタートとしての新線建設、既設線の輸送力を强める爲複線其の完備を期する爲沿線諸附帶その他諸施設の增備擴充を行ふと共に、港灣に於いては大連、營口港の諸港の擴張により設備の增强を實施すべく、水運における航路の新設、自動車における路線の擴張、車輛その他諸施設の增備等と相俟ちて交通部門の全面的强化を圖らんとす

又炭礦に於ては國大細胞坑内擴張設の整備擴充、製油工場の擴大頁岩石炭液化工場施設の完備に努め、燃料國策に一層の貢獻をなすべく、更に調查部門に於ては昨年度確立せられたる大調査機構の內容の一層充實し、支那事變關係、東亞交通關係、日滿支物資動員並生產力擴充等重要諸問題の全般に亘り調查研究を進め東亞興隆の國策遂行に寄與する所あらんとす

△△△而して以上△△△交通、鑛工、調査の三大根幹部門と竝行する我社の使命達成に必要なる資源開發に就ては既に滿洲國政府の決定を見、本年度に於て資本金八億圓を一躍十四億圓に增加し、以て國策將來の伸展に要する資金を確保することゝなり、加之右增資方針の決定を機と社業發展上因きを加ふるに至れり、而して明年は大陸に於ける現社の部設を新たにし又滿洲國政府と我社の關係はその資本參加其の他に依り益々緊密化せらるゝこととなりたり、今や歐洲の戰亂は擴大しその波及する所全世界を震駭し、國際情勢の將來は蓋し何時如何なる事態を惹起するやも測り難く、興亞の大業亦前途多事なるを豫測せしむるものあり

△△△この非常△△△の時局に當り皇紀二千六百年を迎ふるに、國民として恐懼に堪へざる所にして我等に御稜威の上を想起し、八紘一宇の肇國の理想に從ひ三千年來培養蓄積し來りたる崇高なる精神を以て民族の興隆と東亞新秩序建設に一路邁進すべきを痛感す、茲に此の記念すべき新春を迎ふるに方り、大陸の第一線に立ちて東亞興隆の聖業を翼賛し奉る我社の責務愈々重大なるを想ひ、更に覺悟を新にして社業に精進せんことを誓ふ所以なり、些か所懷を述べて年頭の辭とす

更に統制强化に協力

京城商議會頭 田川常治郎

先づ以て皇紀二千六百年の輝かしき新春を迎へ、謹みて寶祚の彌榮を祈り奉る、顧みて聖戰を起して茲に三年、大陸に大規模の戰鬪を展開し、着々偉大なる戰果を收めつゝある一面國內に於ては戰時經濟の一段と强化徹底を見るに至り

日滿支 經濟の互助連携は漸く緊密化の過程にあるが、戰時に於て戰爭は勝利を直接の目標とし、また長期建設のためには凡ゆる問題に先行し生産力の擴充を以て實に現下日本の至上命令となすのであつて、かゝる觀點より近年重要なる地下資源と兵站基地構成上に占むる地理的優位性のゆゑに、半島產業經濟の負荷する役割は時局下に一層の重要度を加へつゝあり

事變以 來我が半島の實績を通じて示されたる半島人の國家意識の昂揚は、人的資源の供給といふ點から國防經濟確立上における半島の地位向上を促す一大要素となつた觀がある。我々は茲に更めなる年を送り、更に新なる年を迎へるに當り先づこの事實を直視し時局下半島產業經濟の負荷の益々重要なるを痛感するものである、大陸前進兵站基地として半島產業の建設は未完成の域を脫し得ない。併し人的物的資源は頗る豐富であり、加ふるに半島經濟の推進力として總督政治の綜合的一元化は、內鮮一體の庇護の下に地盤の上に國防產業の飛躍を近き將來に實現し得ることゝ信ずる

周知の 如く半島經濟は從來久しく農業生產に依存し、食料、原料品を移出し、工業品を輸入する植民地經濟の役割にあつたのであるが、滿洲事變を轉機として近代的大規模工業の移植勃興が急激に行はれ、さらに支那事變の勃發は半島工業化の過程を一層促進しつゝある。即ち米、綿、パルプ、鐵等礦業原料をはじめ金、銀、石炭其他の鑛產資源の賦存を有する

之等を 原料とする食料品工業、纖維工業を初め重、化學工業が相繼いで起り、かくして工業生產品の總生產額に於ける比重の增大、貿易の質的變化が齎されるに至り、さらに未開發電力の利用促進、灌溉治水の施設に徹底、道路の修築改良と共に工業の飛躍的發展を見るは必至の情勢にある

かくの如く半島產業經濟の開發は今日時局經濟を中心に着々進捗を見つゝあり、而して內地における企業勃興の旺盛に伴ふ附帶的現象と與り、從來の回避的に半島に於ける生產發展を期したる立地條件の有利性に積極的な企業の移植を開發利用し、地の利を得んとする工業立地條件の有利性に着眼を置いてゐることはこの際注目に値する

工業化 は北鮮ブロックを先驅として京仁、西鮮、南鮮等地域別にブロックの形成が見られ、殊に、動力資源關係等を確立した生產力の擴充策が計畫されてゐるが、就中わが京城は半島の首都として政治、經濟、文化の中樞的地位を占め、氣候溫暖、人口稠密、交通の要衝に當り、漢江の川との間には廣闊地域

線地帶 を合して約一億萬坪の工業用地を有し、既に京仁一帶化の實現を目指して工業用水道の起工に着手一方目下ダム工事中の華川水電は將來三十二萬キロの電力を供給することゝなり、將來大規模工業の發達は期して待つべきものがある

かやうにして半島產業は生產力の擴充を通じて兵站基地としての使命完遂に邁進しつゝあり、これに伴つて貿易態勢は歐洲戰爭を反映して貿易も頗る活況を呈し、昨年の如き殆んど總額二十億に達し、從來の記錄を作り鮮米商品を中心に輸出貿易が伸展を見つゝあるが、外貨獲得上重要使命を持つ第三國貿易は未だ幼稚の域を脫せず、貿易額の增大も輸出入品價格の昂騰によるもの多くまた仲繼貿易による活躍にあるも寧ろ今後の研究解決に俟つところが多い

以上 生產力擴充、輸出の增進を通じて半島經濟の時局寄與は眞に顯著なるものあるを認められ、本年は躍進の躍展と相俟つて一段活況に向ふものと考へる、併しながら事變下物資の不足、物價の騰勢傾向に對する問題は最も緊要の施策であつて、この點各位の一層の時局認識を要請し、生活の刷新、消費節約によつて戰時統制の圓滑なる運營に協力し、半島の負ふ使命完遂に向つて邁進せねばならぬと存ずる次第である【京城商議會頭 田川常治郎】

謹而奉賀紀元二千六百年之新春
祈皇軍武運長久

牙浦 開寧 金烏山 甘川 農所 谷松 位良 助馬 公立尋常小學校一同

金泉邑甘文面 趙鳳來

甘文面事務所 職員一同

慶北金泉郡牙浦面 白利欽商店

知禮面 北川正太

金泉郡甲川 小川酒造場

甘川面事務所 職員一同

慶北金泉郡 甘川公立尋常小學校 職員一同

大德面事務所 職員一同

金泉郡南面 許檍

慶北元開寧邑 東一商店

開寧面事務所 職員一同

鳳山面 呂煥商

鳳山面 愼重基

大邱府本町 金聖在

慶尙北道立 大邱醫院

慶尙北道 倭館官公吏一同

大邱府 中等學校長會

助馬面長 金夏默

善山官公吏一同

助馬面事務所 職員一同

甑山面事務所 職員一同

鳳山面事務所 職員一同

知禮面草箕作組合 職員一同

代項面事務所 職員一同

龜城面事務所 職員一同

知禮金融組合 趙仁濠

大德公立尋常小學校 職員一同

農所公立尋常小學校 職員一同

甘川面事務所 職員一同

栗谷公立尋常小學校 職員一同

農所面月谷洞 金德培

京金泉郡南 石川宗平

慶北善山郡內 善一釀造場

鄭煥奎

鳳溪酒造場

鳳山面 新興精米所

甘文面 金在源

助馬面 金敎元

大德面 李學俊

慶尙北道農會
慶尙北道地方米穀統制組合聯合會

朝鮮紡織株式會社 代表者 荒牧唯彦

大邱府元町 三中井

大邱府東城町二丁目三八ノ二 野村號武具株式會社

片倉大邱製絲所
大邱製絲株式會社
朝鮮生絲株式會社

大邱金曜會
合同銀行
商工銀行
朝鮮銀行大邱支店
殖産銀行大邱支店
漢城銀行大邱支店
朝鮮貯蓄銀行大邱支店
東洋拓殖會社大邱支店
朝鮮信託會社大邱支店

南鮮合同電氣株式會社 大邱支店

賀紀元二千六百年之新春併而皇軍武運長久

香椎長箭工場

長箭漁業組合
組合長 黃雲天
理事 三池忠信

株式會社 江原港灣埋築
代表取締役社長 天野郡治
同 專務 三池忠信

江原道漁業組合聯合會

大西彌三郎

江原道立長箭醫院
職員一同

本田米市

岡田村市

三浦潔

愛宕丸
伊藤虎雄

御料理 清見

長箭劇場

御料理 丸山亭

長箭鰯油肥製造業組合
組合長 津田梅一
理事 廣田敬一

江原道鰯油肥製造業
水産組合長箭支部

長箭漁業組合造船鐵工部
長箭ドック工業所
電話一二五番

長箭邑長

朝鮮油脂株式會社
大庭重行

朝鮮油脂株式會社長箭魚糧工場
關根四郎

溫泉旅館
萬龍閣

江村清一

水産業
津田慶一

長箭郵便所

崔永福

○よし
電話一〇三

濟東醫院
崔圭河

三重旅館

油肥製造業
朴淳香

小山寅之祐

海産物貿易商
田中勝太郎

三崎造船所
電話三八番

水産業
森彌七

溫泉旅館
嶺陽館

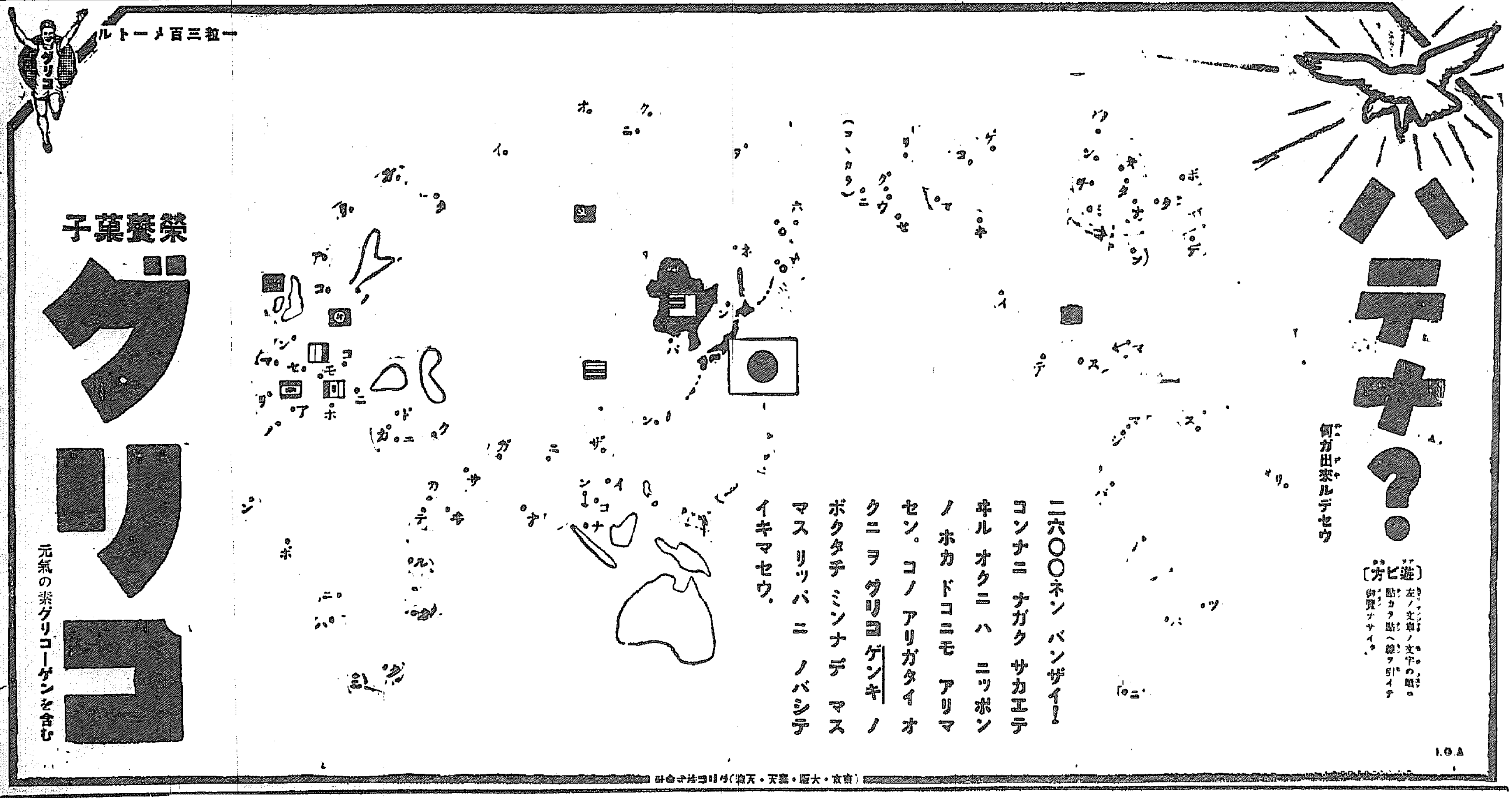
御料理
大和家
外金剛溫井

御料理
松鶴
外金剛溫井

殖銀長箭支店長
白井哲次郎

朝鮮東海鰮巾着網
漁業水産組合

江原道會議員
黃雲天

朝鮮協同海運株式會社

十日會
朝鮮油脂長箭營業所
林兼商店長箭營業所
朝鮮漁糧長箭工場
朝鮮運送長箭出張所